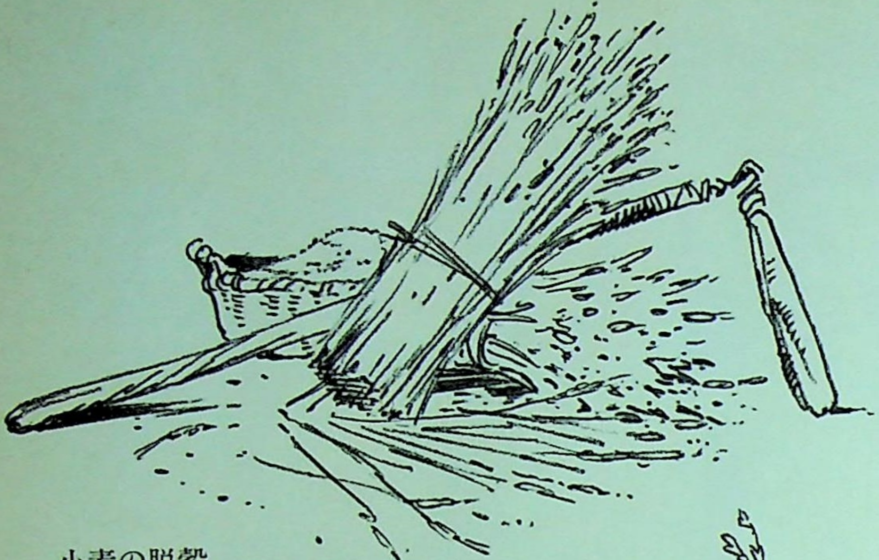
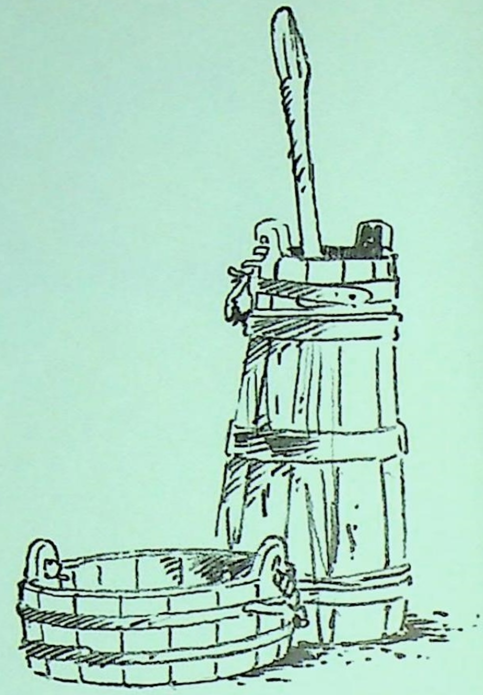


小麦の脱穀

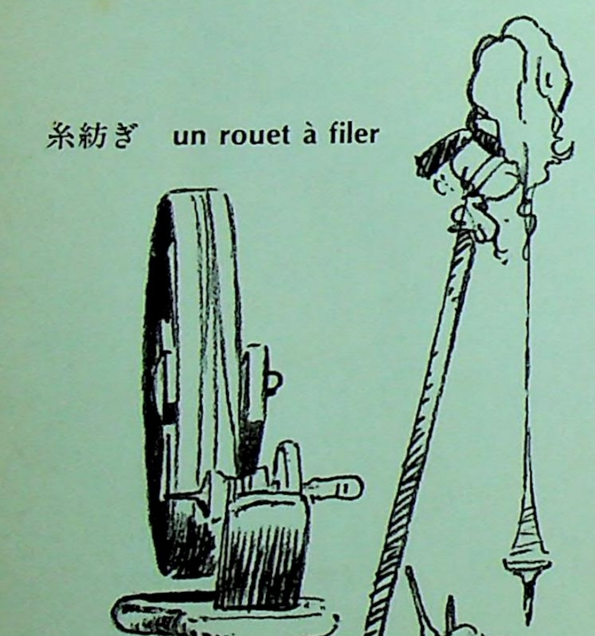
une battage du blé



攪乳器　un batteur du lait



糸紡ぎ　un rouet à filer



5月を祝う十字架

une croix félicite le mai



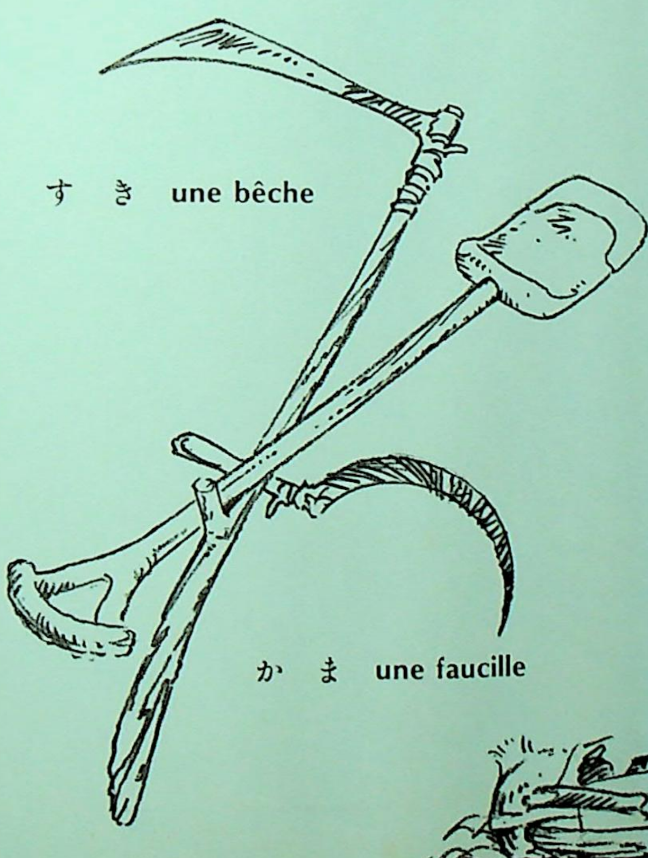
革の帽子と長靴

un chapeau de cuir et des bottes

かまど　un four



す き　une bêche



か ま　une faucille

食べ物　des nourritures



SUPER HEROIC FANTASY

D'ARC

1



KENICHI SAKEMI
&
KATSUYA KONDOH
PRESENTS



ジャンヌ・ダルク
Janne D'arc

14世紀、百年戦争に揺れるフランス王国。神聖ローマ帝国に近接するロレーヌ辺境。そこを流れるムーズ川に沿うように小さな村があった。そのドンレミ村にひとりの少女が生まれた。

少女の名はジャネット。

後に神の声に従いフランス王国をイギリス王国の支配から救うことになる少女。同時代人にジャンヌ・ラ・ピュセル（乙女ジャンヌ）と呼ばれ、後世ジャンヌ・ダルクとして万人に知られることとなる少女だ。

しかし、本書で語られるジャンヌ・ダルクの物語は、まだ彼女がジャネットと呼ばれたドンレミ村時代、つまり子供時代が描かれることになる。彼女がジャンヌ・ラ・ピュセルとして、シャルル王太子をランスでの載冠式へと導くべく、幾多の兵を従えてイギリス軍と戦うのは、まだまだ先のことだ。

ジャネットは母親に糸つむぎを習い、父親にくっついて牧羊を手伝う。丸顔の健康そうな顔はとりたてて美少女でもないかわりに、かといって醜いというわけでもない。いたって普通の農家に生まれた女の子である。

ただひとつだけ。そう、ただひとつだけジャネットは普通の人と違う力を持っていた。ジャネットは普通の人には視ることができない妖精たちを視ることができ、会話すらも楽しむことができたのだ。ドンレミ村に程近い槲の森(ボア・シュニュー)、そのはずれにそそり立つ巨大なブナの木「妖精の木」に集う妖精達との楽しいひととき。

そんなジャネットのささやかな平和も、ロベール・ド・ザールブリュッケン率いる盗賊団の来襲と、樹木の妖精・マールとレーネの囁きによって、大きく揺らぎ始めるのである。









ジャン・サン・プール

イギリスを相手に唯一対等に交渉を行える力を持つブルゴーニュ公。しかし、彼は王太子によって……

エロー師

神学教授であるエロー師はシャルル王太子と共に、マリ・ダヴィニヨンの視たという幻視を語るのを聞く

ベドフォード公

わずか生後10ヵ月でイギリス国王となったヘンリー６世の叔父。彼に代わってフランスにあるイギリス領土を治める





1429年９月10日、パリの東南に位置するモントロー橋上に設置された、シャルル王太子とジャン・サン・プールの会談を警備する。それが彼らの役割だと思われたのだが……

兵士

登場人物

ジャンヌ一家

　ダルク家の家族構成は次のとおり。ドンレミ村の世話役を務める父親・ジャック。ジャネットが誰よりも強いと信じ、尊敬する人物だ。熱心なキリスト教信者である母親・イザベル・ロメ。彼女の存在がジャネットの信心深さを生んだ。ダルク家の長男・ジャックマン。ジャネットの叔父と言われてもおかしくないくらい年が離れている。ダルク家の次男・ピエール。普段はボーっとしているようにみえるのだが、いざというときには頼れる男だ。ダルク家の三男・プティ・ジャン。まだまだ少年っぽさが抜けない生意気ざかり。そしてダルク家の末っ子、ジャネットの妹・カトリーヌ。ジャンヌとほとんど年の差がないので、姉妹というよりも友達のような関係だ。自分もジャネットのように妖精と話したり、遊んでみたいと思っている。

　ジャネットの家はどちらかというと、ドンレミ村の中でも豊かな農家である。それはジャックが世話役として対外交渉を一手に引き受けていることも影響しているのだろう。



妖精

ずっと昔、人は妖精たちの姿を視ることができた。地の精・ブランタンはジャネットに語る。今では自分たち妖精の姿を視ることができる人間の方が少なくなった。その原因が人々が土着信仰を捨てて、キリスト教を信仰したからなのかどうかはわからない。ただ、確かに四元素霊たる妖精たちは我々のまわりに存在するのだ。

ブランタンとジャンヌ

地の精ブランタンはジャネットが5月の祭で踊る姿をみるのが好きだ。妖精たちのなかでもいちばんジャネットのことを気にかけている



花の精

風に乗って宙を舞う光の粒子。それはよくよくみれば可愛らしい花の精なのだ



ゴブリン

いたずら好きの妖精も、ジャネットのことが大好き。ジャネットの前ではいたずらも忘れるらしい



ブランタン

妖精の木が小さな芽だった頃から、樹の森に住んでいる地の精。ジャネットの保護者をきどる

マールとレーネ



樹木の妖精である美しいふたりは、はたしてジャネットになにをもたらそうとしているのか？



ノーム

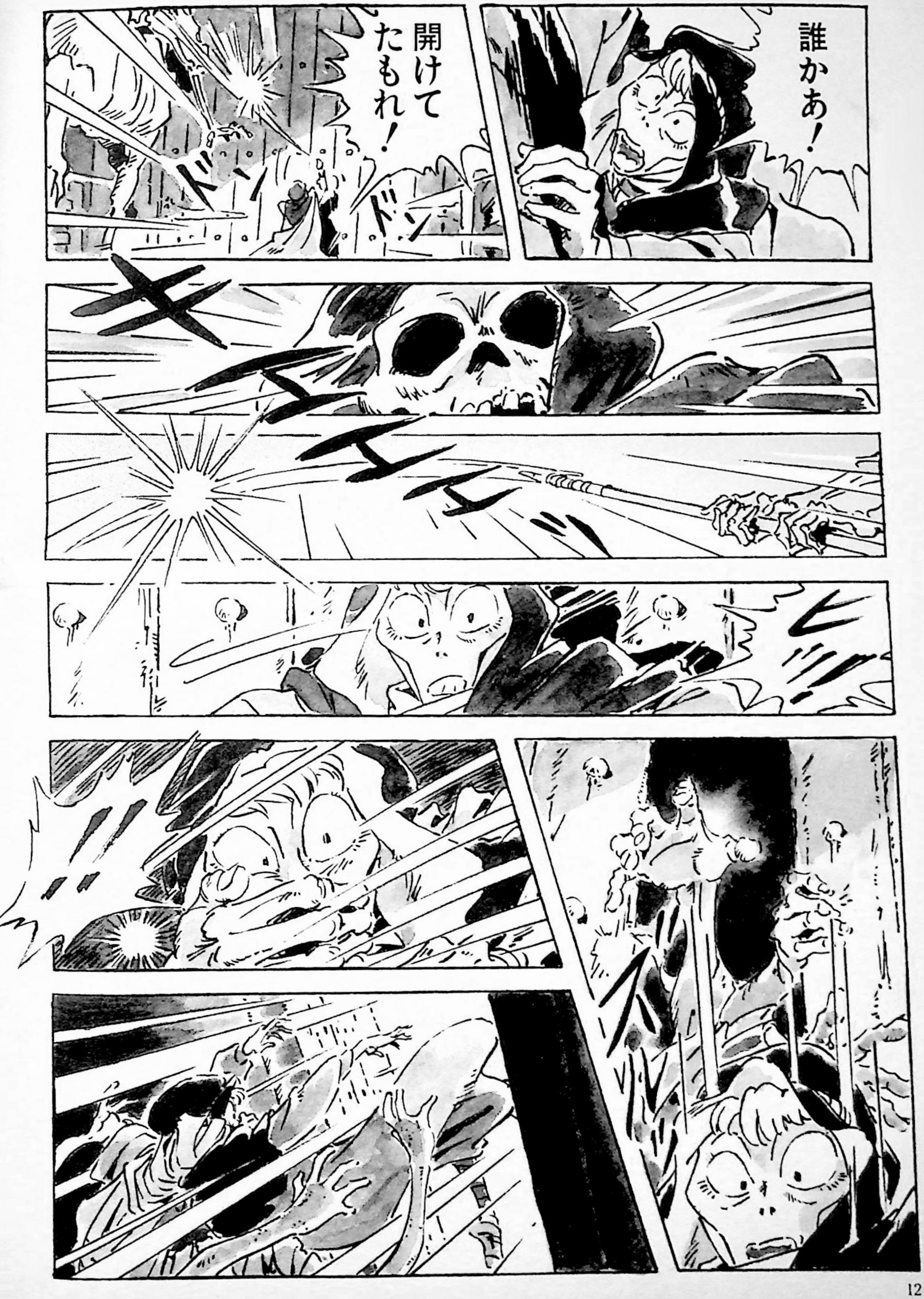
ブランタンの仲間。木の葉や岩のすきまから、こっそりとその可愛らしい姿を現す


ーーアッ
ーーアッ
ーーアッ
妾は視たのでございます
ーーアッ




それは
この世の終りの
様な光景
でした
誰かぁ!
誰か助けて!
カァ
カァ


助けてくれ！
死ぬのはいやだ！
ひっ！


誰かあ!
開けてたもれ!
ドン


ドオオオォッ


こ…黒死病じゃ！

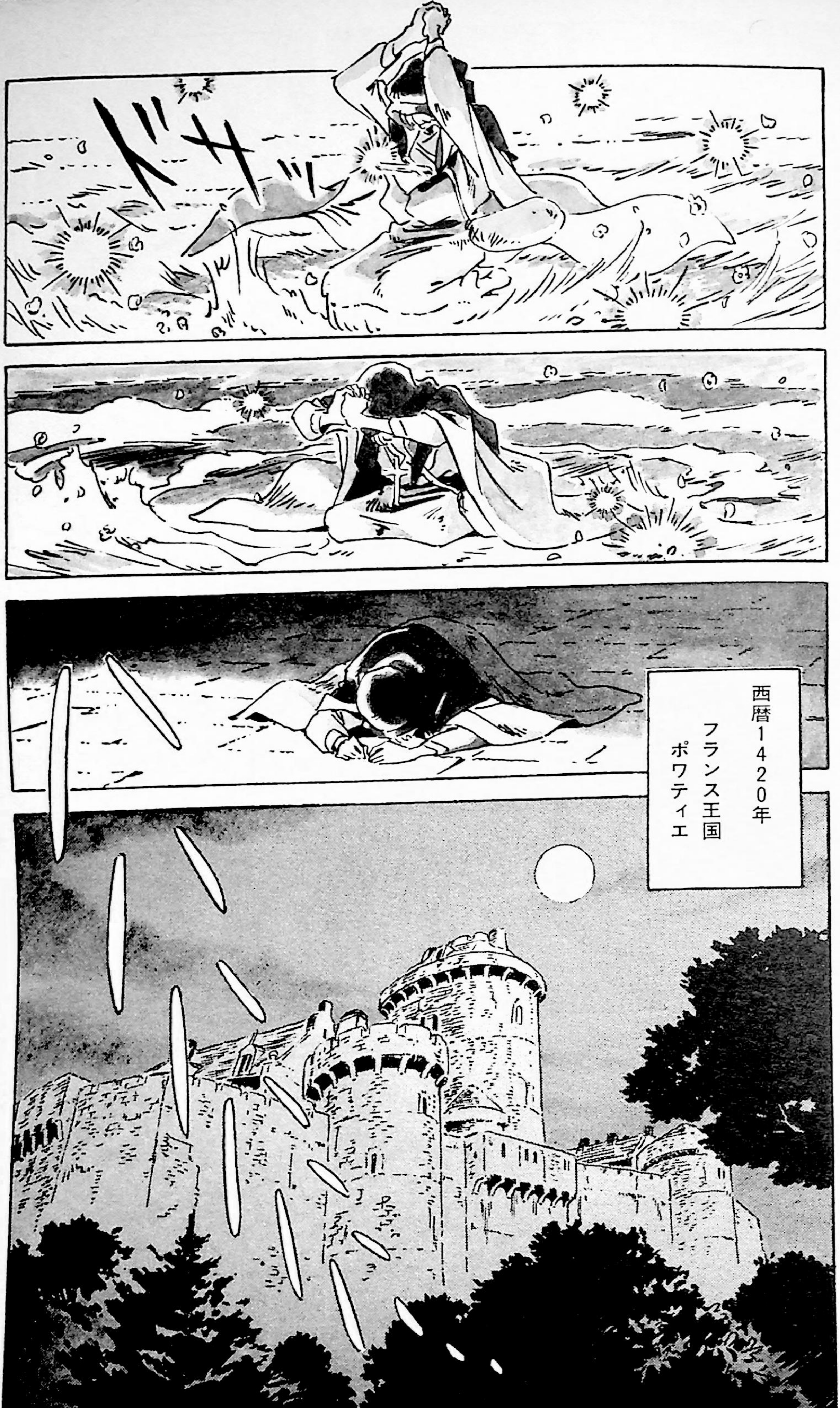


…ゴゴゴゴゴ
パアアアア…！
アア…！


ハアッ
ハアッ
バタッ
神よ……
あまりに
無慈悲で
ございます！
なぜ
このような
試練を我々に
お与え
なさるのか！
…
うっ
…うう……


……
妾に着ろとでもおっしゃるのか!?
とんでもございません!
なんでそのような重き恐しきものを!!
恐れることはない
これを身にまとうのはお前ではない
お前のあとから現れる乙女がこの甲冑を身につけて戦い…
王国を敵の手から救い出すであろう……
……乙女!?




ドサッ
西暦1420年
フランス王国
ポワティエ





……フフフ…
占い女め当てがはずれた様だな
これでまた貧乏王子のうわさが広がるぞエロー師
……
……イカれた女だが気晴しにはなった……
巷間ではあのマリ・ダヴィニョンなる女視しものは偽り少なしと言われております
故にこそ評判の高い者でありましょう
甲冑の乙女のことはともかくとして……


なるほど
乙女(ピュセル)が甲冑を
身にまとい
現れるのか
はい
御前に
……
フランス王太子
シャルル・ド・ヴァロワ
(シャルル七世)
もうよい
さがれ
!?


——今より 9カ月前——
パリから南東 70キロ 小都市 モントロー
……ワイングラスをテーブルにお倒し下さい
それを合図に我々は行動に移ります

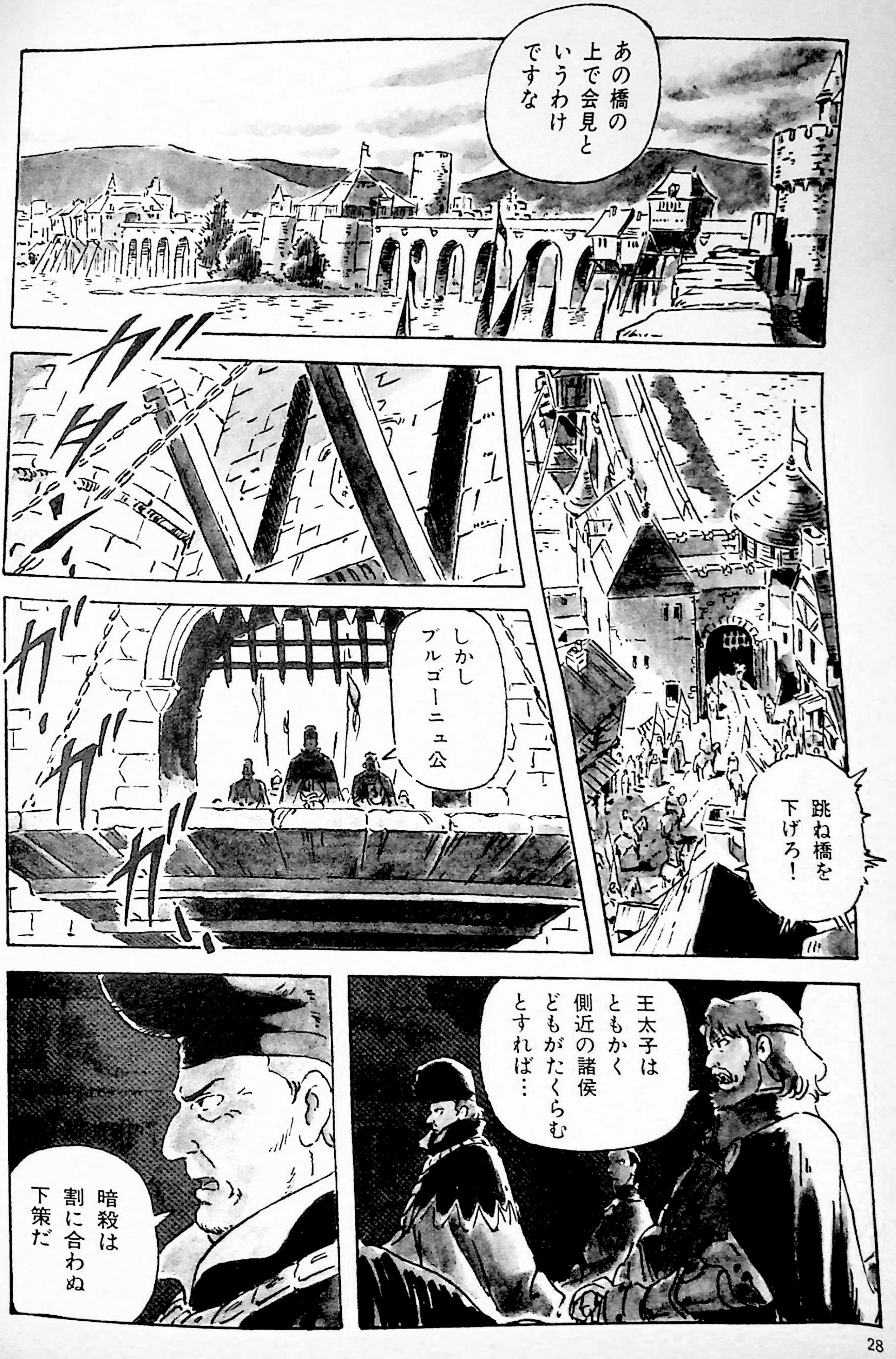

王の将来に
よき展望が
あるという
暗示かと
……よき展望か……
あなた様が
正しければ
主が見捨てる
ようなことは
ありません
信じて
祈ることです
……信じて
祈れか
くそっ!
あのじじいさえ
生かしていれば
……
イギリスに
王位を
奪われずに
済んだというのか!


護衛は10人と指定
約定違えまじくか……
カッ
カッ
よほどわしが恐しいと見えるな
たった10人でわしをどうこうしようとは片腹いたいわ
あの臆病な小僧にわしを殺せるものかね……
……
見えましたぞ
あれがモントロー橋です


ブルゴーニュ公が対岸に着き橋に向かって出発したとのことです
……うむ
……いよいよですな
諸侯は諸侯らしくしておればよいのだ
俺が王太子次代の国王だ
あのジジィはそれを忘れている



奴らもバカではあるまい
今わしを殺せば誰がイギリス人どもと張り合えるのか
この難局を乗り越えられる力があるのはフランス中でこのわしだけだ
ダ
かりに会見が争いになったところで心配はいらん
わしひとりで10人叩き斬ってくれるわ
そうでしょうとも無畏公の名はとどろいておりますれば
トルコ軍を相手にあげた数々の武功
その勇当代まねの出来るものなどおりません


あの橋の上で会見というわけですな
跳ね橋を下げろ！
ガガ
ガガガガ
しかしブルゴーニュ公
王太子はともかく側近の諸侯どもがたくらむとすれば…
暗殺は割に合わぬ下策だ


……それとも引き返しましょうか?
……
……
ふむ
ザザ
相手は会見の礼も知らぬ若造だ
文句を言ってもはじまるまい
ニヤリ

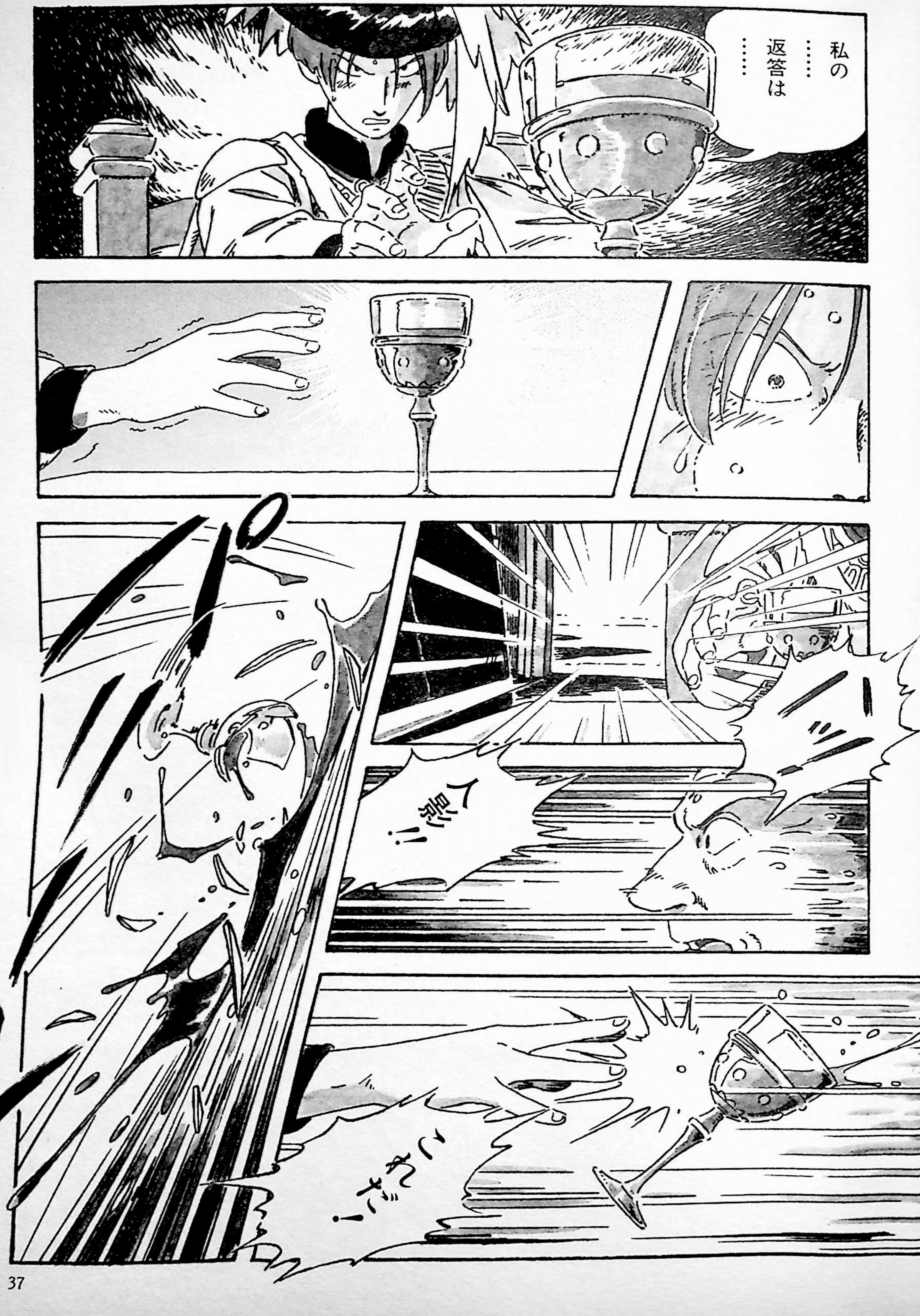

王太子などは ひ弱な やせっぽち にすぎず
従う連中も 皆腰抜け ばかりでしょう
カッ カッ
ふむ
ブルゴーニュ公！
王太子側は どうやら先に 柵の中へ入って いるようです
何だと!!
こういう 場合は 同時に 入るのが すじだろう
……
礼儀も こころえ ぬよう ですな
カッ カッ
少々きつく 言って とっちめて やりましょう


ガ
ガ
ガ
ガ
ブルブル……


ギギ
バタン


さっそくですが……
王太子殿のご意志を伺いたい
……両方のいざこざにけりをつけたい
それだけだ……
それは私とて同じこと
周知の通り今は国内で争っている時ではござらぬ
両者が和解団結していれば……
イギリスとの戦いに負けることは有り得ないでしょう


フッ
……
この会談はこちらのものだな
ようこそおいでになられたブルゴーニュ公
王太子もご機嫌うるわしゅう
パリで一別以来ですな
ジロッ
王太子じきじきの会見光栄に存じます


私の……返答は……
人影!!
これだ!


王国の分裂状況を改善する
それが私の望みです
それにはぜひとも王太子の協力が必要なのです
ズ・ズ・ズ
なにとぞ！
パリでの宮廷への復帰をお願いする


おのれ!!
うろたえるな!!


退けーッ


ザザッ
主は見放されたぞ!!
ペッ!




ドウオオオッ
ガクッ
ヨロ…
クッ!


ドブッ


ピチャ
ピチャ
ブルゴーニュ公のお命を頂載した
無畏公はもういない
仰せの通りです
サン・プール殿の御遺骸を鄭重にな…



オオッ神よ!!
ブルゴーニュ公は薨られたぞ!!
なにをぼやぼやしている退却だ!!
向こうは数百の兵士を率いておるぞ!
たわけ!
仕返しはいつでもできる!



俺はあの時
これで全てがうまくゆくと思った
単なるお飾りでない己の力を誇示できると思った
ところが結果はどうだ
相変らずの流浪の王子だ!!


ハッ…何が正しいかなど
今の俺にはどうでもよいことだ
何が正しいかなど誰にもわかるものか！
調査官を呼べ…パリの動向を聞きたい
好い占いよりも好い現実だ
ハッ！
甲冑をまとった乙女（ピュセル）……か
……


ヘンリー六世の叔父
でありフランスに
おけるイギリス軍の
総指揮官
ベドフォード公
父（ブルゴーニュ公）
亡きあとブルゴーニュ領を
継ぎシャルル王太子の
最大の敵となる
新ブルゴーニュ公
フィリップ善良公
ブルゴーニュ公
暗殺が裏目に出て
新国王につけない
ままパリをあとに
ブールジュに
しりぞく
フランス王太子
シャルル・
ド・ヴァロワ
いずれにせよ
この三者が今のフランスを
動かしているのであった
この政上の混乱は
王国のいたる所に
禍をもたらすこと
になる
ドド
ドド
野盗の群れと化した
傭兵たちが横行し
町も村も荒れはてよ
うとしていた

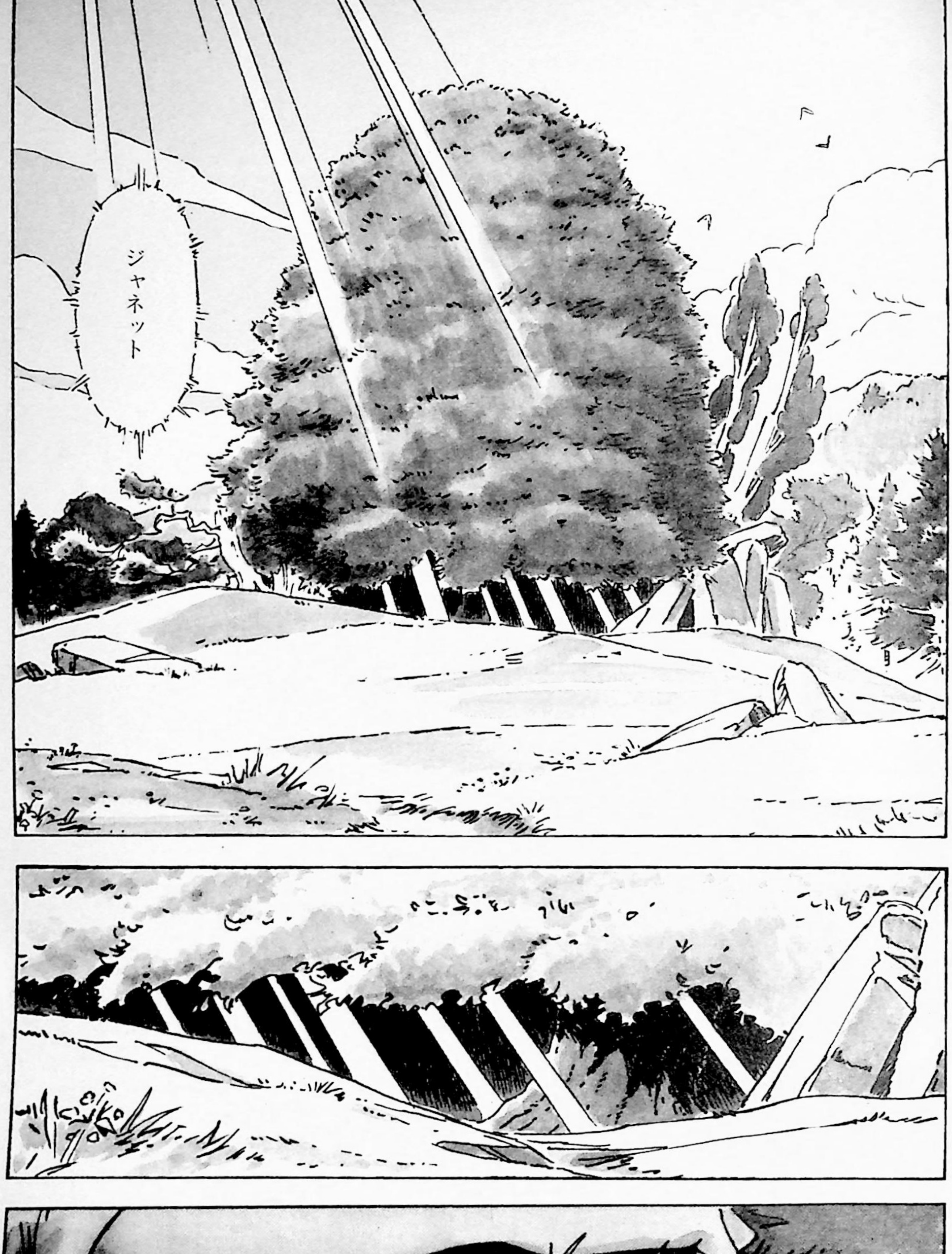

1420年代
百年戦争のさなか
フランス王国には
三つの政権があった
イギリス王国
ネーデルラント
フランドル
ノルマンディー
パリ
ドンレミ村
モントロー
ロワール川
オルレアン
ブルゴーニュ領
シノン
ブールジュ
ポワティエ
フランス王国
ボルドー
ギュイエンヌ
イギリス占領地域
ブルゴーニュ公支配地域
フランス王国領
ノルマンディーとギュイエンヌ
を支配するイギリス王国と
フランドルとネーデルラントを
支配するブルゴーニュ公
ブールジュを中心に政府を構え
る王太子シャルルである
ブルゴーニュ公暗殺の二年後
英王と仏王があいついで歿すると
イギリスとブルゴーニュ派の手に
より、新しい英国王がフランス国
王としてパリにたてられた
まだ一歳にもならぬ嬰児
ヘンリー六世である

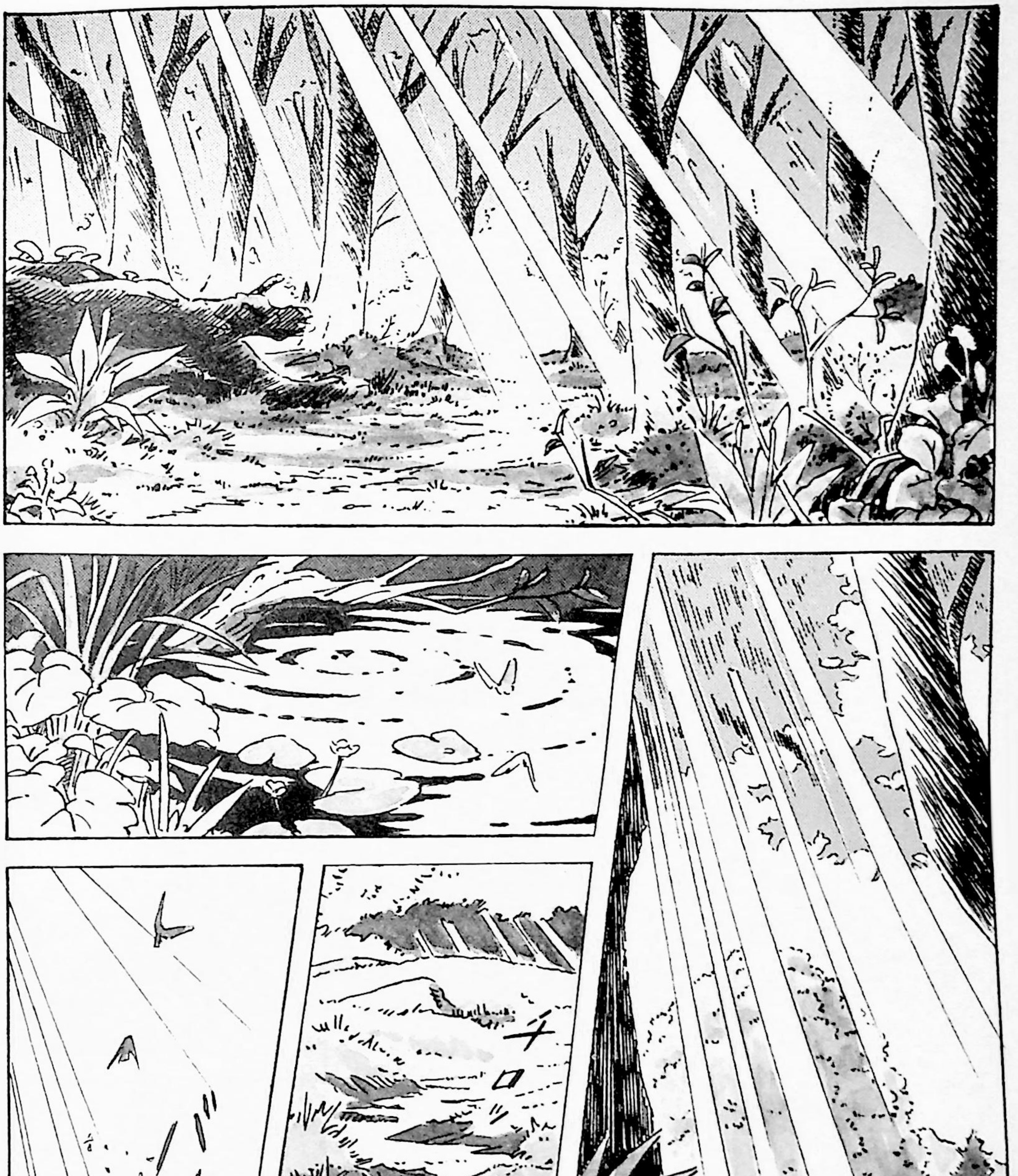

ザッ
ザッ
主よ…
大地が実り豊かであるように
あなたの民のうえに祝福を…
アーメン


時同じく
フランス
ロレーヌ辺境
ドンレミ村
メエー
メエー
人口三百に
満たない
小さな村である


森の方へ行ったよ
糸つむぎを教えてあげると約束したのに
カトリーヌおいで糸つむぎの仕方を教えてあげるわ
エ〜ッ！


ジャネット
ジャネット
こら まてー！
捕まえた！
カトリーヌ
ジャネットを知らない？
……おネエちゃん？


ジャネット




ジャネット
……
……！
あっ……ブランタン
……お散歩に行ってたの？
アアッ
他のみんなも？


起きなさい
ジャネット


ザザ
オーイ
アッ いたッ!
フフッ
こっちよ ジャン
ハハッ!
ハアッ
ハアッ
そらッ!
キャ!
ドザザッ
ハアッ
ハアッ
ダメッ ダメだってば
ジャン!
ダメ!


この陽気じゃ
大方どっか遊びにでも行っとるんじゃろ
そうね
春だもの！
オーイ
どこだアー



ウーン そうだなァ……
ホレ… そこに新芽が出とるじゃろ
このデカイ木がこんなに小さい芽の時からいるよ……
エ〜ッ!
そんなに昔から
なに つい最近じゃよ
その頃からドンレミ村はあったの?
あったよ…… でもドンレミは人がつけた名前だからな……
興味ないな


シッ！
……誰かいるわ
お…おい…
?!
でもブランタン
ブランタンはいつからここにいるの？
アレ？ジャネットだ


だって世界で一番きれいな所なんだもん！
……
……??
アッ…でも天国が一番きれいな所だって
神父さまが言ってたから
ドンレミ村は二番かな？
でも天国には死なないといけないんだから…


わしらはただ
森とか
谷とか
呼んでいるだけ
で十分なんじゃ
……
……
……!?
エッ?…
あっ いや…
だけど…
カバァ
……
……
ドンレミという
名は気に入って
いるよ
スクッ
……よかった
私も
ドンレミ大好き


ハア～～？
…………
…………
パコリ！
ブランタンって
……お前
誰も
いねえぞ
……
さよなら…
アッ
ダダッ
おい
どうしたんだよ
ちょっと
待てよ！
おい


やっぱりドンレミが一番よ！
ハハッ
オ・・
オイ
！
……お兄ちゃん
天国とか死ぬとか……
何ひとりでブツブツ言ってんだ？
エッ？あっ…
この人ブランタンっていうの



じゃあ
神様にも言っては
はだめなの？
ウ〜ン
神様なら
いいよ
人はだめな
のに神様？
そうじゃ
それが分別と
いうものじゃ
神様ならまず
安心だ　悪い神様
はそういないけど
悪い人間は
多いものだか
らねぇ
昔　誰でも
われらを感じる
ことができた頃
は……
あの頃は
よかった
ふーん
……
アッ！
いけない
もうそろそろ
帰らなきゃ



………
まさに花咲き乱れ恋の季節じゃ
やっぱりお兄ちゃん達にはアンタが視えないのね
今ではわしらが視えるジャネットの方が
まれじゃからのう
だけどお嬢ちゃん
わしらが視えるということは村の皆には言わぬがいいよ
……どうして
神父様の前でも言ってはだめなの？
もちろんじゃ
わしらのために言うのじゃない
ジャネットのために言うのだよ


チュン
チュ
チュン
ヒラ
ヒラ
カッ
カッ
カッ



今日はお母さんに糸つむぎを教わるの
ああそうかい気をつけてなお嬢ちゃん
うん！
起こしてくれてありがとう
タタタ…
ほんとに
ええ子じゃな
ザワ
ザワ


ジャック・
ダルクさんはよ
ヘッ
ヘヘッ
ザッ
ザッ
朝っぱらから
何の用だ
ザッ


!
……
……!?
ザッ
カカッ
ッ
ここの者か？
ツ…
あ…
アアッ
親父はいるか
ザッ


あんたがダルクさんか?
そうだ
オレ達アザールブリュッケンの者だ
……そう
最初はゆっくり回して
クルクル
ずいぶん上手になったわねジャネット
ほんと?


ここらでは
見かけん顔だな


へヘッ
……筋？
お前らに筋があるとは思えんがな
とっとと帰れ！
俺は忙しいんだ
……お父さん
……ジャネット？


…………
…………
お前らが何を言いたいのか俺にはよくわからねえが
この村じゃ納めるもんは納めるべき所へ納めているがな……
ザザ
あんたがこの村の代表なんだろう
ええダルクさんよ
オレ達ゃあ物事の筋をはっきりさせようとしているだけなんだが



ふふん
若いの
おどしにしても
そんな剣捌きでは
誰もおびえはしないぞ
クッ!
……
……
ギュッ


ドザッ
ハッ
ガシャ
まちなよ
ダルクさんよ
へいへいと
追い返される
わけにはいかねえ
んだよ


そのうち痛い目を見るぞ！
あわわッ
！
……………
クッ……！


若いの
どうやら戦さ場に立ったことはなさそうだな
俺達は鋤鍬を年中振り回しているんだ
百姓だと思って舐めていると


ダダダッ
あんなふうに追い払ってしまって大丈夫なんですか
他に言いようもあるまい
弱腰を見せれば図に乗るのが
ああいう奴らなんだ
心配はいらんよ
さあ行くぞピエール
ザ
アアッ


けッ！
これで済むと思うな！
今度来る時はましな返事を用意しとけよ！
何度来ても返事は変わらんぞ
いきがるのも今のうちだ！


お母さんに叱られても知らんぞ
女の子が羊番なんかしていると魔女と間違われるぞォ
わたしは魔女なんかじゃないもん
お兄ちゃんわたしが魔女に見える？
一般論だよ一般論
お父さんさっきのがらの悪いおじさん達は何なの？
ザールブリュッケンの名は出してはいたが………
ふんどうせただのエコルシュール共だろう
俺も昔、ここに住み着く前はブルゴーニュの隊長について戦場稼ぎをしたこともあってな………


さすが親父奴らビビッてたぜ
筋がきっちりとしてりゃあなあ……
納めた所に頼れるんだが
お父さん強いね！
なんだジャネット糸紡ぎを習ってたんじゃないのか？
うんッ
もうずいぶん上手になったって
羊を囲いに行くところでしょう
お父さんについてっていい？
俺は別にかまわんが


メエエエ…
メエエエ…
羊がいっぱい
じゃあなジャネット羊に踏まれるなよ
踏まれないよーだ
ハハッ
あんまり離れるなよ
はーい!
親父遅いじゃないか
すまん一寸一問着あってな
一問着だって?……


少しは手柄も立てたものだ
だがそのうち嫌気がさして逃げ出した
どうせ根無しの雇われ者ばかり
戦さがひまになると　とたんに盗人まがいのことをし始める
ブルゴーニュ公の手勢といえば聞こえもいいが
結局はろくでなしの集まりだったのさ


今の混乱に乗ってこの近辺に手を出しても
！
誰も文句を言わないだろうと思っている
――とすれば
さっき来たのよりはましな兵隊が襲って来る可能性がある
親父！
そいつはまずいじゃないか
ザールブリュックの奴等だとすりゃ……
ただの傭兵崩れの物盗りとは意気込みが違う


ハア
ハア
ワアッ！
キレイ……
そんな連中追い返しちまってかまうものか
気になることもある ザール
ブリュッケンの馬鹿殿はけっこう本気らしいのだ


それにしても
ジャネット
には関係の
ない話だ
家で大人しく
してお父さん達
の言うことを
よく聞いてい
ればいいんだ
ザッ
いいな？
うん
わかった
ジャックマン
兄さん
とりあえず
望楼での見張
りをきびしく
することだ
ああ
俺は明日にでも
グリュー村に出か
けて村長に話を
通してこよう


そうだろうな
とにかく用心に
越したことはない
村の者にも
言っておかね
ばならん
兵隊が
ん？
来るの？
なんだ
ジャネット
聞いてたのか
兵隊じゃねえ
盗賊だ
盗賊
………


美しい森の
ちいさな
ウグイスよ
お前は
昼も夜も
啼いている
さあ
五月が
やってきた
娘たちよ
恋をしなさい
ああ
美しい歌声よ




カトリーヌ！
アァッ！



ハハッ
どうか
恋が叶うまで
啼きやまないでおくれ
アハハ
フフッ
ドッ
あっ!


ハア
ハア
……夢……


アアッ！
妖精の木が!!


……よかった
にろくのチョウ！
オオッ！ツキがまわってきたぞ！



さあ!
ハッた!ハッたア!
ハン!
チョウ!
ハン!
わしゃア チョウ!
ホッ


こんにちは ジャネット
こんにちは 花の精さん
おや?
やあ ジャネット
あっ ジャネットだ
こんにちは
今日は にぎやかかね
我々の遊びに まざるかね?
お嬢ちゃん


タッタッ
チョウ！
さあ
ハッた
ハッたア
ハン！


ジャネットのお婿さんが誰になるか賭けるってのは？
気をつけなよジャネット
？
そいつはペレランといって妖精一のスケコマシ野郎だぜ
チュ！
わッ
わッ
わたしは結婚なんかしないもん！
でもそんな先のことを賭けるなんて
ずいぶん気が長いのねペレランさん


でも お嬢ちゃんには賭けるものがなさそうだなァ
賭事はよくないことよ
楽しいことに悪いことなどあるものか
そのうちわかるよお嬢ちゃん
わたしジャネットという名前があるのよ
これは失礼……
マドモアゼルジャネット
では こういうのは どうです？
……


ほんの少し
ジャネットが
ワァ!!
私に心を
ゆるしてくれれば
………
逃げろーー
ジャネット!!
ザッ
うわあああ～
やめろペくラン!!
まだ
子供だぞーー!!


キャ!
フフフ……
私は少々未来が読めましてね……
出たァァスケコマシの術だ〜〜〜!
ア・アー
あれで何人の村の娘を再起不能にしたことか!


…………
ジャネットの未来の婿殿が……
……!?
チュッ
ややややッ?
わッ!
ポーン



よせー
アクラー
やめろー
君のその瞳の奥から未来のうるわしい殿方を見つけてあげる
さあ 私の目を見つめて……
心を開いて
もっとよく見せて


おかしいなァ〜〜〜?
みまちがえたかなァ
婿が見えないというのはあまり良いことではないんだぜ
ジャネットもう一回みてあげる
サッ
イヤッ!
ギャハハハハハ…
ペレランがふられたアァ!
………
いいぞジャネット〜〜〜!
ざまあねえや!


ドサッ
キァ!
あれェ!?
ほんとに見えないぞ
ホーーラ アンタのいうことなんか やっぱりいい加減!!
コホー……
……でも一寸 カッコよかったかな……
いい加減じゃない!
瞳で婚姻を占う術は本当さァ!
アハハハハハッ
ふう…… 危なかった……
どーした ペレラン!


ほな
さいなら
バサバサ
チャポン…
ジャネット
またなア!
シーーーン
………
行っちゃった
…ったく
しょうがない
奴らだ


あんまりジャネットをからかうんじゃない！
ア〜〜〜ッ今日はこれでおしまいだ！
とっとと帰ってくれッ!!
……ブランタンはジャネットのことになるとすぐムキになるなァ


バァァァ
それ！
ボッボッ
捨てる
こともできる
のさ……
ふーん
あ……
サラサラ
サラ



これがブランタン達のお金なの？
アア
こんな葉っぱで何か買うことができるの？
何でも買えるぞ
ニヤ
パラパラ
ホレ！
キャッ
アアッ！金貨になった
——かと思えば焚き火にもできるし……
ザック


かもしれんね
でもわしらには関係ないそういうこった
まあ!……
今日みたいに楽しく賭事もできなくなるかもよ!
……かもしれん
アンタも五月のお祭りが好きなんでしょう
この木がなくなるとお祭りもできなくなるんだから
かもしれん
妖精の木がなくなったらわたしも踊れないのよ
かもしれ……


つまりは木の葉も全ての素で虫たちが食い土にも帰るのさ
うん
ねえ……ブランタンは知っているの？
ここに盗賊の兵隊がやってくるんだって
盗賊の兵隊？………フム………
それはいかんね………
でも関係ないね
えっ……心配じゃないの？
下手をすればこの木も焼かれたり倒されたりするかもしれないのよ


わらわらが燃えてもいいなどと……
勝手なことを言いますねブランタン
おや…めずらしいぞ
森の女王様のお出ましだ
……………!?
アッ


それは困るな
わしゃジャネットの踊りを見るのが好きなんじゃ
それだけじゃないわよ
わたしも村の皆も殺されるかもしれないのよ
ウーーン
ザワ…
ザワ…
ザワ…
……
……!?


先程は失礼しました
森の女王様こんにちは
マールと呼んでよくてよ
レーネと呼んでよくてよ
え〜〜〜とあの…マール様レーネ様村が襲われないかと心配してるんです
あなたたちはこの地の森の女王なのでしょう
ならばドンレミを悪者から守ってください


ごめん
あそばせ
これは
貴婦人方


この木は十分に守られているから火などつきようもありません
そうつきようもありません
ああよかった…
ブランタン聞いた？よかったね
ファ…
ハ…
ホッ
……ドンレミは無事でも
人間のやることは人間に及ぶ…
だから村人たちのことは知りません
関係ないのですよ……


ひそひそ……
ウフフフ…
くすくす…
ひそひそ……
……
ぶすゥ
ドンレミは無事です
むろんのこと無事です
ほんとうですか!?
人間ごときにこの地を荒せるわけはありません



知らないって……
……………
お願いです！ドンレミの村もお守りください
森の女王様ならそんなこと簡単なはずでしょう？
人間のことにはあまりかかわりたくございませんの………
思い起こせばもうずっと前にローマびとがこの地にやってきたときから



たちの悪い人間が何をしようと……
そうですとも……
ええッ！そんな…
………
ドンレミは無事
でも村のことは知りません



※ドルイド＝昔のヨーロッパ人の古い土着宗教の祭司階級のこと



そう………ずっと前にゲルマンびとやノルマンびとがこの地にあらわれて以来………
わらわ達は迷惑を被っておりますの………
そうですともフランクびとがジェジュ（イエス）とかいう神に服従して以来………
わらわ達に捧げものをする者もいなくなった
あんな東の僻地の異神がネエ〜〜〜ッ！


フフフ
ホホホホホ…
……
そんな……
ジャネット……
……
!
フフフフ


そういうことは今あなたたちが捧げている神に頼めばよろしい
わらわらよりも功徳のある神なのでしょう?
力のあるジェジュにお願いなさいな……
ジェジュは?
一度ジェジュに会ってみたいこと
ジャネットはジェジュにではなくわらわらに祈るかえ
そうすれば村ごと守ってやらぬでもない


タッタ
もう頼まないんだから!
ジャネット!
ピョーン
……
タッタッタ
オイッ
姐さんがた!
ハハハ…
フフフ…
一体どういうつもりなんだ!


……
タ
タ
……分かりました
教会で
イエス様に
お祈りします！


……
ナニ～？
何をたくらんでいる
おれはジャネットの味方だぞ
ザッ
妙なことを考えているんなら
森の女王だろうが遠慮はしないからな！
そうだ！
そうだ！
たくらむなんて人聞きの悪い…わらわ達もあの子の味方ですわ
サッ
……
そ～～…
そうですともあの子はいい子


ホホホホホ
フフフ…… つもりとは 何のこと でしょう？
あんな ちっちゃい子を いじめて
面白いのかと 聞いているんだ！
まあ こわい……
ガク
ほんとに いい子
いい子 ですわね

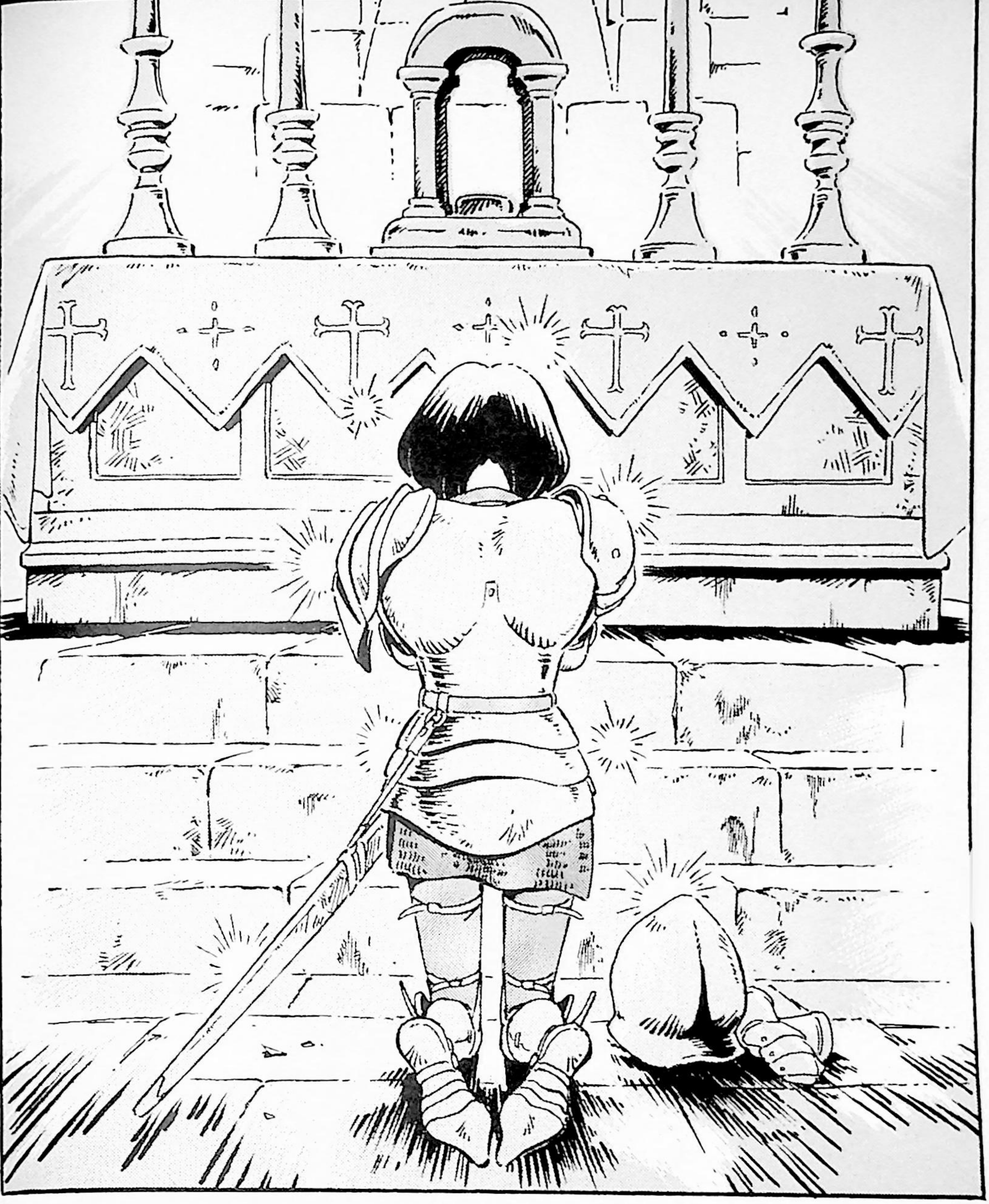

まあ
いいけれど
いい子
だからねえ
ブランタンも
可愛いものね
そうですわね
まだまだ若い
オホホホ……
ハハハ…
怒るとまた
カワイ〜〜〜ッ！
人をからかう
のもいい加減
にしろ〜〜〜ッ！
ドカッ
…………

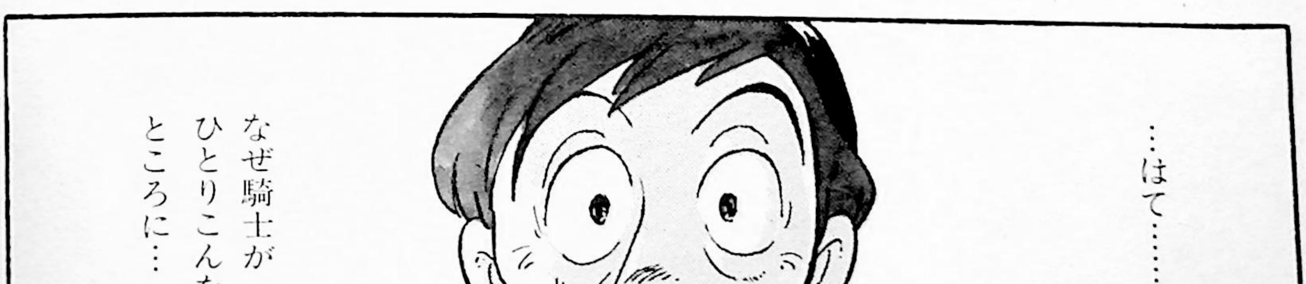

きっと使える子
なんだと……使える？
これは秘密
そう秘密
それはそうとブランタン
人の子に惚れてはなりませんよ
エッ
ドキッ
バカ言えッ!!


となりのダルク
さんところの
ジャネットだな
バタン
まだ7、8歳
なのに感心な
子だ……
ウム!?

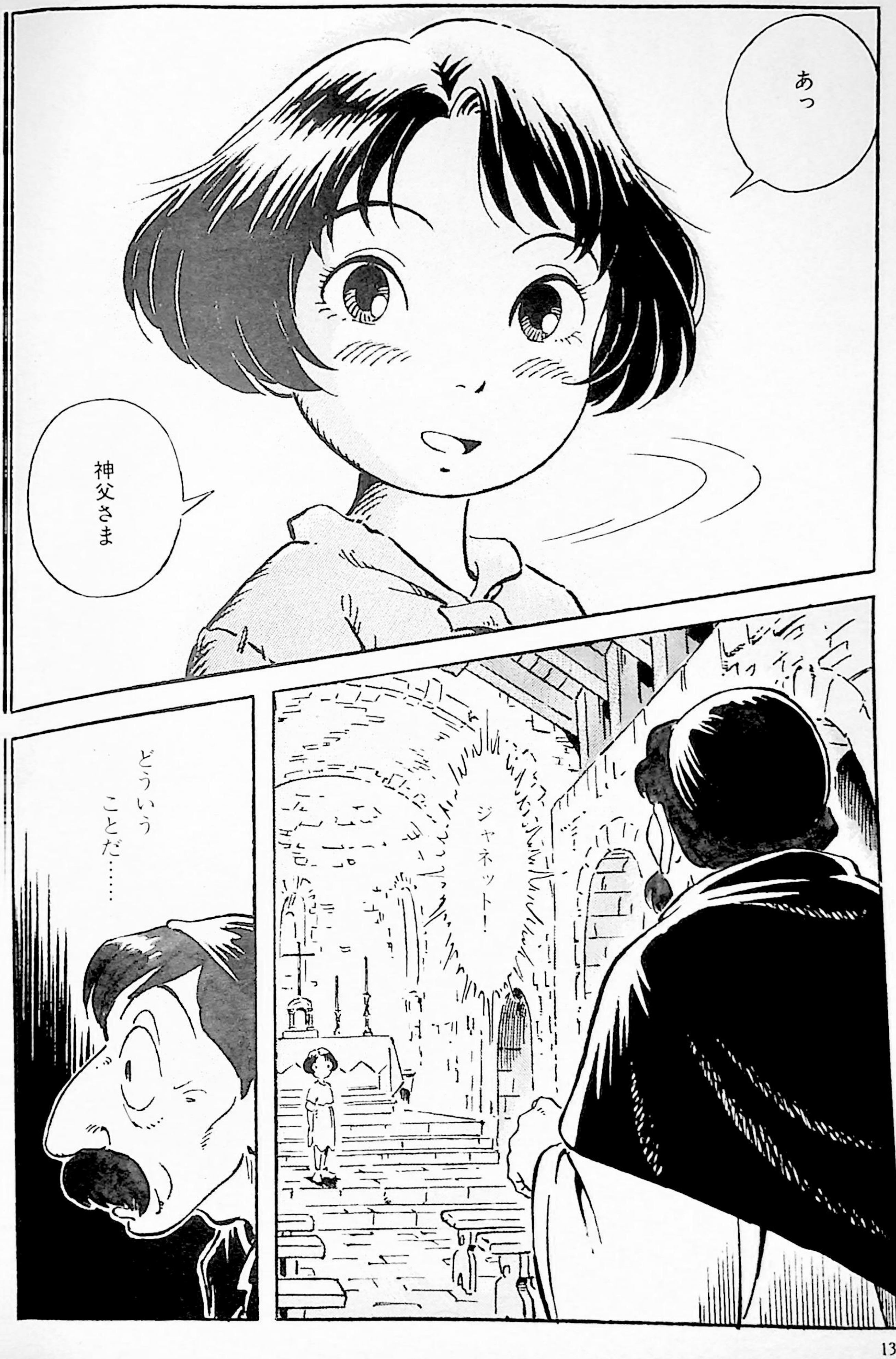

こいつらが何かたくらんでいるのはまちがいないぞ！
バタン…
おや？
誰か居るのかな？

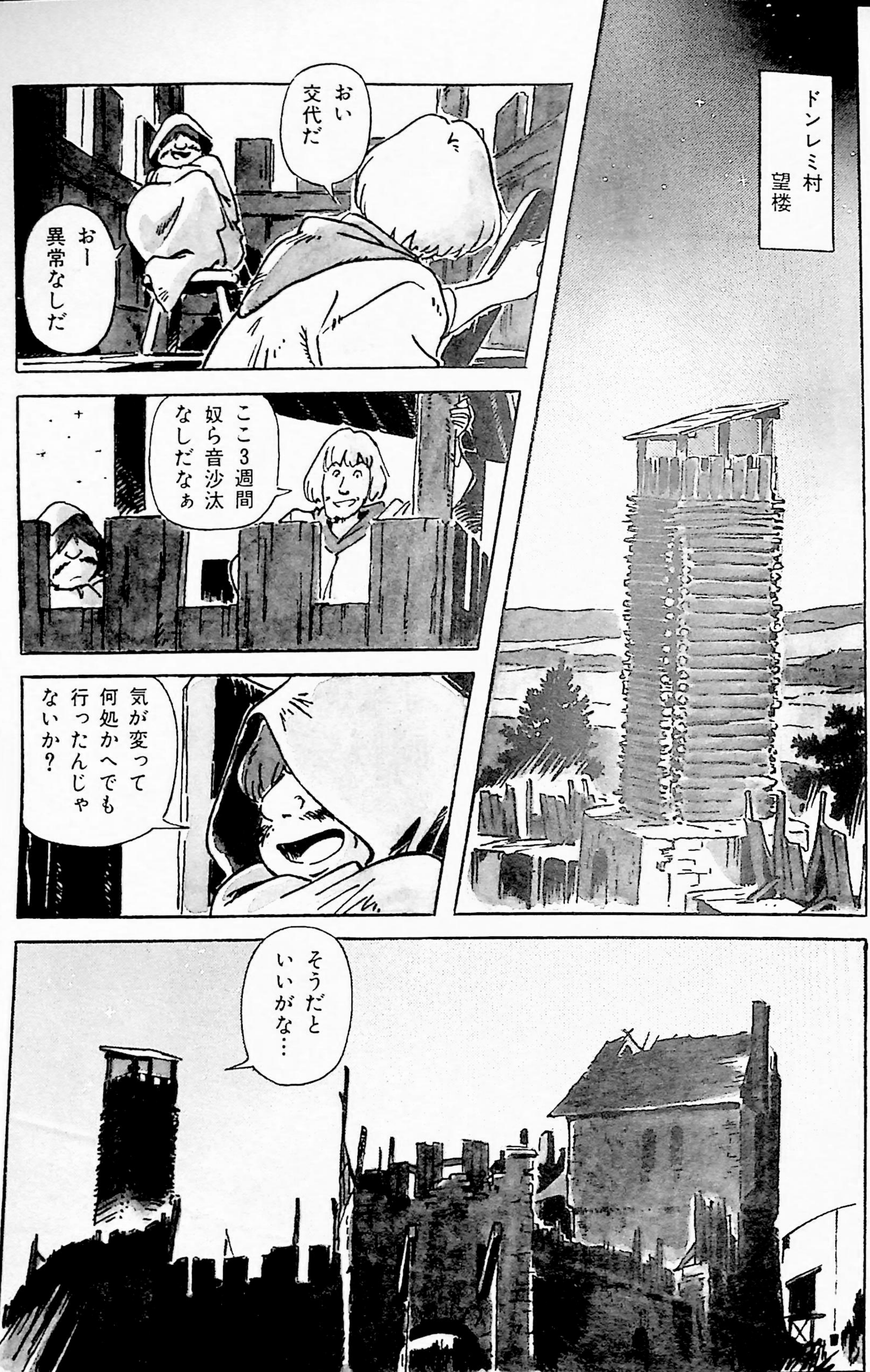

ジャネット！……
ジャネットは何処だ……
スッ
……アーメン
女!?
!



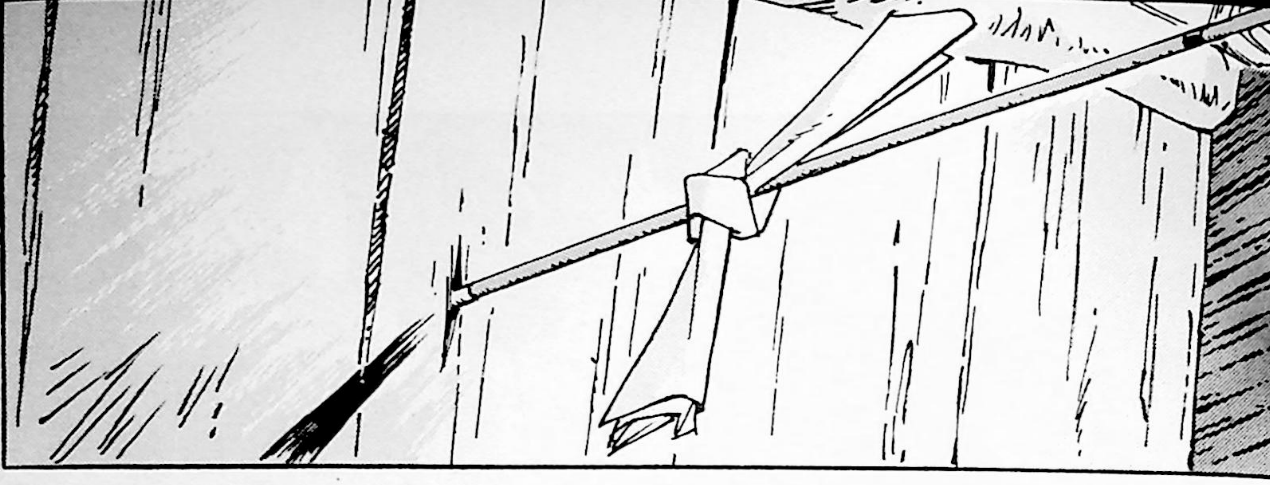

…はて……
なぜ騎士がひとりこんなところに…

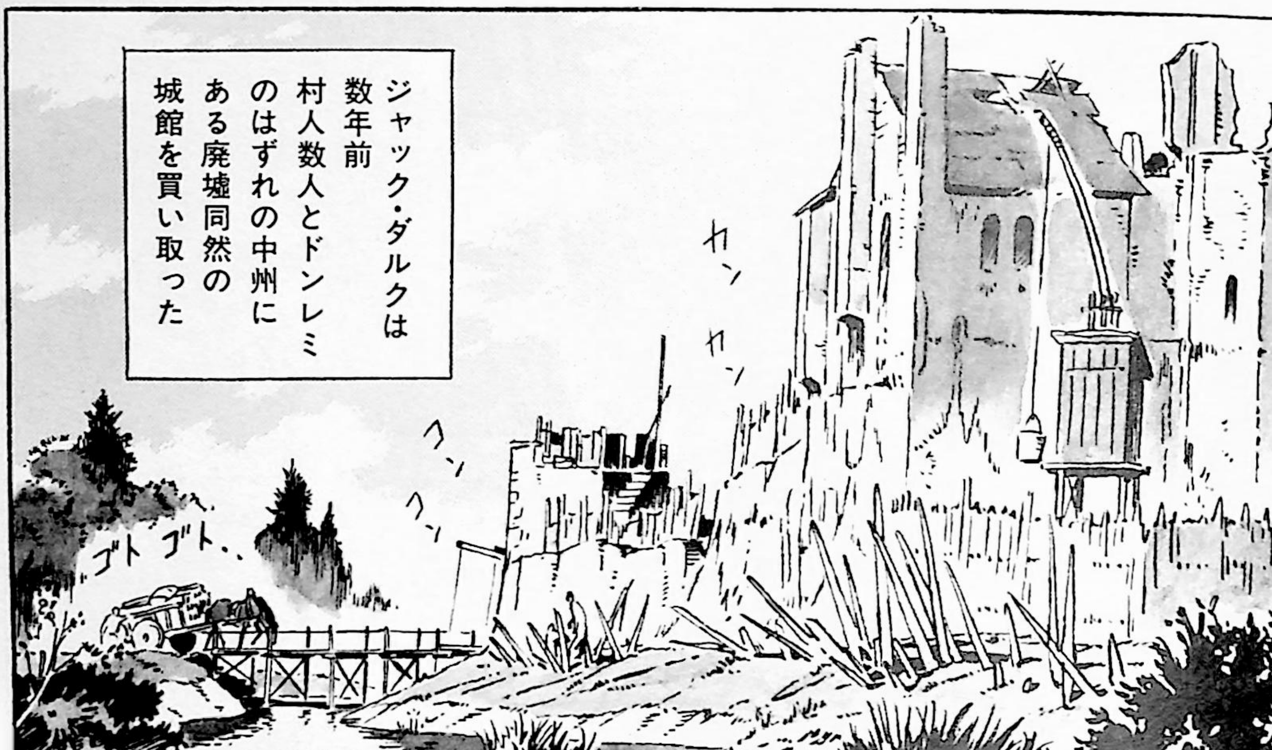

村に悪い人達を来させないで下さいってお祈りしていました
そ……そうかね熱心なものだ
イエス様もきっとお聞き届けになってくれます
イエス様が森の貴婦人なんかに笑われてたまるものですか！
……はて
ジャネットとはこんなに可愛い娘だったろうか………
？
きっとそうであろう
あ……ふむそうだな
では神父様またこの次に
ペコ


あっ
神父さま
ジャネット!
どういう
ことだ……


ドンレミ村 望楼
おい 交代だ
おー 異常なしだ
ここ3週間 奴ら音沙汰なしだなぁ
気が変って何処かへでも行ったんじゃないか?
そうだといいがな…


タタタッ
ギギィィ…
……
なんとも不思議な子だ……
それにしてもさっきの騎士は一体……
幻とも思えぬが……




ジャック・ダルクは
数年前
村人数人とドンレミ
のはずれの中州に
ある廃墟同然の
城館を買い取った
カン
カン
コン
コン
ゴトゴト…


村人が野盗
から身を守る
ための場所が
必要だったから
である
コン
コン
カン
カン…
ゴト…


ドカカ
ドカカ
へへ……
ドカカ

※野盗集団のこと



それは無理だ
!
ただの数人の野盗共じゃない
コンパニーだ
我々の武器といったら斧や鍬位だ
それに家族もいる
…………
……じゃあどうすれば
よけいな損失を出さないことだ
そのためには三つの村が協力して奴らの行動に目を光らせる


ドンレミ
グリュ
マクセイの
村人に告ぐ
大人しく
税をこちらに
貢ぐように
すればよし
カンカン……
言うことを聞かぬ
なら手荒な真似を
することになる
ロベール・ド
ザールブリュッケン
なんと
年貢をよこせ
と………
畜生！
俺達の
領主がはっきり
しないことを
いいことに！
どうやら奴らは
本気らしい……
領主がかばって
くれないのなら
俺達の手で
追い払おうじゃ
ないか！



ドンレミから 北方30キロ コンメルシーのはずれ
ヒヒヒ…
さあ ハッた
チョウ!
ハン!
矢文は 射ってきたか

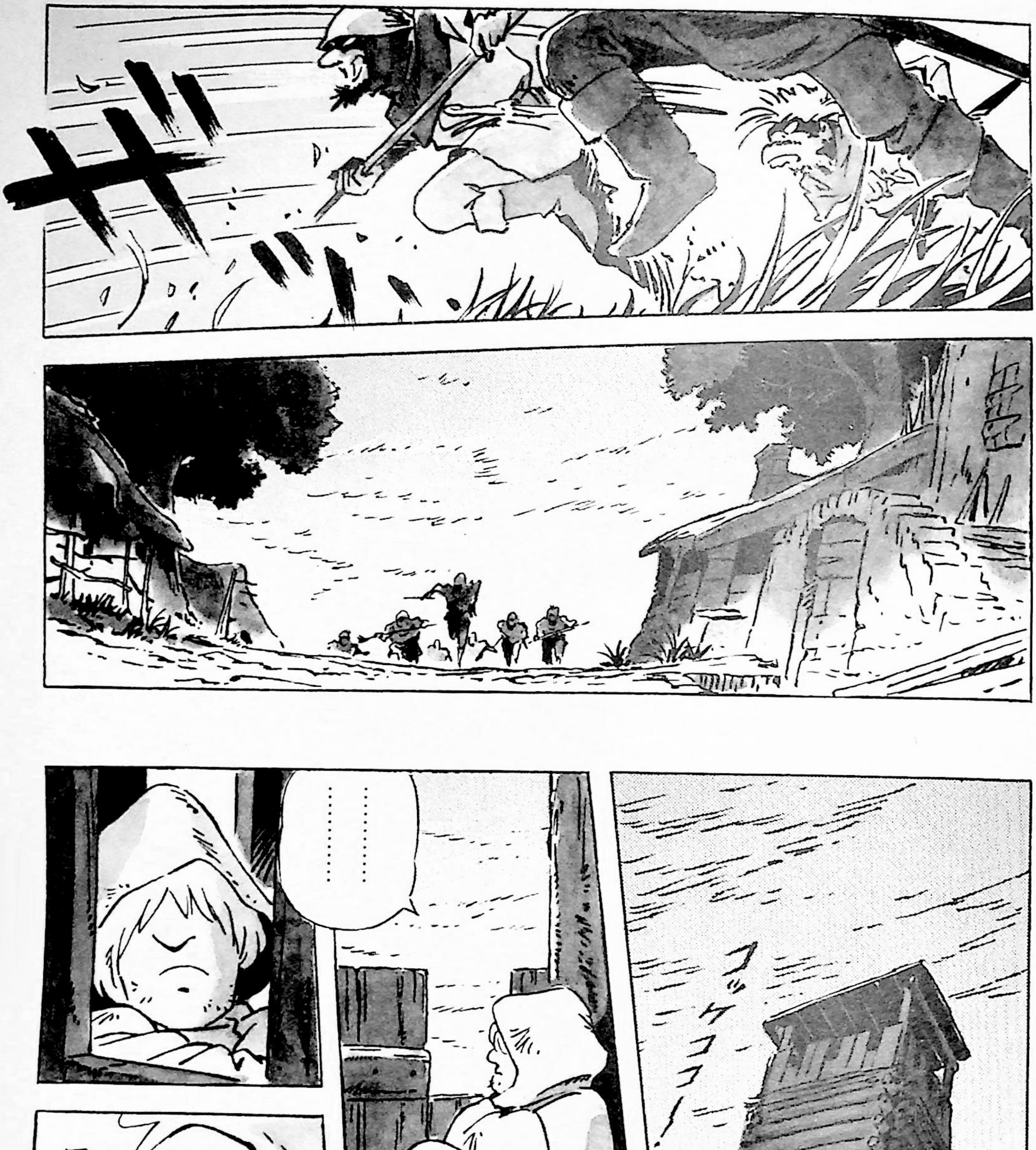

奴らに動きがあれば
ドンレミのこの砦に避難する
それしか手だてはあるまい
……うむ
ジャックのいう通りだ
わしらは百姓だ
だまって耐えるしかない


ゴク!ゴク!ゴク!
じゃあ村を襲わないんで?
プハ〜ッ
襲うさ……効果的にな
?
!
バサッ
円陣をたため!
出発する!


へい
大将 さっさと やっちまい ましょうや
……… あちこち 動き回るのは もうあきた
勇んで襲っても それ一回キリだ
それよりも 百姓らの救世主 面して奴らの 生き血を すすった方が 得ってことよ
グッ


ええ!
マクセイなんざ
三つの村の中じゃ
一番貧乏くさい
村ですぜ
マクセイだ!
文句あるか
ない……
……です
野郎共!
よおく
聞けッ!
マクセイ村を
襲う!
ただし
徹底的に
焼き打つ
思う存分
暴れろ!!


ガラガラ…
ザザッザザッ
カッカッ
大将……まずはどこへ行くんです？
最初はドンレミ村を片付けましょう
カッカッ
………………
カッカッ
ジャック・ダルクの野郎
生意気な口を叩きやがって
マクセイだ



ザザッ
コッケココー！
……
アッ！


オオーッ!!
久しぶりに女が抱けるぜ!!
ギラ


ザザ
ザ
……
……
ブッケコココー！
アッ！


オオーッ!!
久しぶりに女が抱けるぜ!!
ギラ


火を放ったということはすでに略奪したあとだ
カッカッ…
畜生ッ！奴ら夜中のうちに侵入しやがった！
よしピエール
村人に手はず通りに避難する様に伝えるんだ
俺はジャックマンと家畜共を逃難させる
カッ.
そのあとうちのことは頼んだぞ
判った！
カカ
あなた
バサッ


た……
大変だ！
ガッ！！
何ッ！
マクセイが！


早く
かかあの所へ
行ってやりな
クッ……
地獄へ落ちる
がいい
ブル
ブル
人でなし
共め!
ニヤ


家畜は俺達百姓にとって
命の次に大切なものだ
ガタ‥
……
すぐもどる
砦で待っていてくれ
…………
ザザッ
おネェちゃん……



ザク
ザク
ザク。。。
早く中へ！
急げ！
ジャネット――ッ！
ジャネット！
ジャネット居るか！


ガッ
ケッ！
あばよ
村長さん
こちとら
だって生活が
懸ってんだ
おたがい様よ
ひとりも
生かすな！
女も楽しんだ
あとは殺せ！
片付き
次第ドンレミ
グリュへ向かう
へイ
ザッ
ギュ


……
兄貴どうすんだよ
しょうがない ジャネットは親父達にまかせるしかないだろう
ス
俺達は俺達で逃げなくちゃならん
親父達にそう言われているんだ
……
ジャネットのことなら大丈夫だって
前から時々いなくなって慌てることがあったけどいつも無事だったじゃないか
きっと親父達と一緒になるよ 心配ないさ
うん そうよ
?



だめだ！何処にも居ねえ
何処に行ったんだあのバカ！
この大事な時に……
そっちもか……
お兄ちゃん……
ピエールお兄ちゃん
ん？
あのねえ　ジャネットはお父さんの後にくっついていったのよ
エッ本当か！
うん　サーッとジャネットは走るのが早いもの
なんてことでしょう



ダダッ…
!
ダッ
そっちは危いわよ！
お嬢ちゃん
わたし
見たいのどうしても……
火事！



ジャネットはねえ　森の妖精と友達だからいろいろ教えてもらったり
守ってもらったりするんだって
ジャネットがそう言ってたよ
…………
あっ…そういえば
俺、見たよ
ジャネットが森の中で妖精と話をしてた
今はそんなことを話している暇はない
とにかく我々だけで逃げるんだ！
あとは神だか妖精だかにまかせるしかない
ザッ
ザッ
ザッ
ゴトゴト
タタタ…


ゴゴゴ
ゴゴ‥


ハァ…
ハァ
ハァ
ハァ…


ドザッ
ウ……
ウウウ
ズズッ
森の精なんか
じゃない…


……
燃えている
森も
畑も
家も
家族も……
友だちも……
皆…
全部……


あ……
ここは？
！


人…
そう…
ウッ
ウッ
強くて護ってくれる人……
イエス様
イエス様は天国の人……この世にはいない
父さん？……ううん父さんでもない
その人は誰？……
ウッ
ウウッ
ウッ
誰なの？


あなたが…
そうなの……
………
!
ジャネット！


スゥ…
あなたは……


まったく
手間をかけ
させやがって
後で母さんに
みっちり叱っ
てもらえ
バサッ
……夢か……


なんだってこんな所にいるんだ
おいジャネット！
ジャネット!!
ジャックマンかまわず先に行ってくれ！
ああっ
このバカが！
何故母さん達と逃げなかった！
あ……父さん…
しっかりしろッ！
さあ立て行くぞ！


懸け橋を上げろ！
せーの！
奴らだ
奴らがドンレミ村に入ってきたぞ！
！


……
……
ワ〜〜ッ！俺も家畜になった気分だぜ！
一寸の間だ辛抱しろよ！
ジャネット！
ジャネット！
これで全員か？
ああ あんたらで最後だ


ジャック今度はどのくらいかかるかのう
例によってあちらさん次第なんだが
嵐が去るようにさっさと行ってくれればいいんじゃが…
心配しなくてもそうなるさ 奪えるものなんてたいしてありゃしねえ
うむ……不届きものめ
焼き討ちなどせんでくれればよいがのう…
焼いて得があればな
だが今回マクセイ村が焼かれているのが気になるな
うむ
気に入らないのはロベール・ド・ザールブリュッケンの奴がやっているということだが


へへ
どうやら連中はお留守らしい…
当分の間オジャマすることにしようぜ


……でもおしゃべりの前には出てこないかもね
フワァァ
じゃあやっぱりジャネットがついてきてくれなきゃ
……分かったわよ
約束よ
今はおおごとだから盗賊がどっか行っちゃってから
うん
ジャネット約束よ…
ガランガラン
哀れな百姓共に祝福をッてかッ!


ゴホ
ゴホ
ゴホ
ゴホ
カトリーヌ
どうしたの
大丈夫？
うん
大丈夫
ゴホ
ねえ
ジャネット
今度あたしも
森のお友達に
会わせてよ
この前 ベアトリスのおばあちゃんが言ってたけれど
おばあちゃんも子供の頃に森の精を見たことがあるんだって
でもびっくりして逃げ出しちゃったんですって
その後は見ていないんだって
ふーん
あたしは逃げたりしないから
ねえ
わたしに頼まなくても
カトリーヌが森に行って
呼びかければ ちゃんと
出てきてくれるわよ
そうよ
そうかなあ…
じゃ今度
やってみようっと



くそッ!
奴ら一体いつまで居座るつもりなんだ!
もう二週間目だぞッ!
偵察隊の話だとマクセイはさんざんな目にあったらしい
村の者はほとんど皆殺しにされて女子供も容赦なしだそうだ
畜生共が!


ドスッ
ダダッ
ブヒッ!
お見事ッ!
ケッ
ウアアッ!
なんだよ兄貴!
ザッ
的がブタじゃいまいち乗らねえなァ…
ただブーブー走りまわるだけで命乞いしねえからよ
あんなドンレミのボロ砦なんかサッサと殺っちまえばいいのによ
えッ!
その通りだ兄貴ッ!


……
……
何を考えているかわからんが
なあに連中もそのうちあきてとんずらするさ
それとも奴らこのまま百姓にでもなろうっていうのかな？
ア～ア！かわってこっちが盗賊にでもなりたいよ！
アホッ！
そいつはいいや！
辛いだろうがもう少し辛抱してくれ
皆！
オオ！



※ドンレミ村から20キロメートル離れた人口3千人都市。ドンレミ領主的立場にある。


言うまでもねえや
大将がここの百姓に
おなりになるってんなら
俺達はてんで
バラバラにどこ
かに行くって
こってす
皆
そう言ってい
るのか
そうです
いくら酒や女も
足りてても
こんな所にゃ
飽き飽きだ
!
ムクッ
潮時だな
グッ
出ていく野郎共
を引きとめる
気はないが…


…………
どういうつもりだ！
…………ロベールの野郎
大将
一体何を考えているんです
何がだ
大将が何を企んでいるのか知りませんがいつまでこんな貧乏くさい所にいるんです
皆 ブーブー言ってますぜ このままじゃ俺達にも考えがありますよ
どういう考えだ


大将はジャック・ダルクをご存じなんで？
すこしな
ガラッ
カッ…
オイッ！鼠の穴に隠れている百姓共ッ！
ロベール・ド・ザールブリュッケン様のお越しだぞ!!


そろそろ仕上げにかかるか
ドンレミ砦に矢文を射ちこんでこい！
文面はこうだ
明日の昼頃話に行くから待っていろ
ジャック・ダルクあてでいい
お前らは前にジャック・ダルクに恥をかかされたんだろう
出ていく前に奴の泣きっ面を見たくはないか
あのくそ頑固な男も参っているだろうよ
奴の仏頂面が目に浮かぶ


ヨ〜〜〜ウ！ジャコ・ダルクか久しぶりだなァ
話とはなんだ
ヘッ
相変らず愛想がねえなァ……
まあそうカリカリするなよ
ジャコ


!
村の衆
おびえること
はないぜ！
ザザッ
手出しは
しねえからよ
ザ…
ザ…
こちとらもう
殺しには飽き飽き
してるんでな
ザザッ



信じられんな……
まあ待てよジャコ
とにかく俺達もお百姓さん達と同じでひま人じゃねえからな
いつまでもこんな所にいるものか
お前らが飲むものを飲めばすぐにでも引き上げる
……
ドカッ
分かってんだろ……ジャコ!
このへんにゃあどうも領主様というものがいなさらぬらしい
このご時世とあらばなんとも心細かろうよ
そこでだ!


お前らそんな
ちんけな砦に
いつまでも
籠ってないで
さっさと
家に帰ったら
どうだい
畑の世話
をするなり
ヒョコ
羊を
遊ばせるなり
普段通りに
始めたら
どうだ
オッと……
安心しな
俺達は
決して手を出
さねえよ
こいつは
約束しよう！



どうだ……ジャコ？悪い話ではあるまい
ロベール
嫌だと言ったらどうする
ムク…！
パンパン
……そうだなァ
あと半年ばかりここに居座るかな
だが俺はともかく手下共の中にゃ気短かで気の荒い奴もいるからな
へへへへ…
ザク…
マクセイのことは知っているだろ
気の毒なことになっちまった
ああいうことをすると神様の手前後生が悪いやね


このロベール様がその役を引き受けてやろうと思ってな………
ドンレミ・グリュを襲おうと考えるような不届きな盗賊共がいれば
俺達が叩き出してやるお前らは安心して仕事に励める
どうだね
くッ!
野郎ッ!!
なんだよその面は
つまりは領主様がいなさらぬ間は俺達がドンレミやグリュを保護してやってもいいということだ
そのかわりといっては何だが領主様に納めるべきものは俺達に納めてもらわにゃならんがね………


……
しばらく時間をくれ村の者と話し合う
かまわねえよ
ま もう答えは出ているだろうがな
明日まで待ってやる話がまとまったら来いお前の家の前で待ってやろう
野郎共！引き上げだッ！
ニヤ…


俺はバカ野郎
連中を必死で
止めたんだがな
ザザ…
盗人の人でなしめがッ！
ジャコ
昔のよしみで
言ってやってんだぜ
返事はどうなんだ？
村の者に指一本触れないというのは本当だろうな
昔は正直者と呼ばれた俺だぜ
まあ信用しろよ
カッ
カッ
カ
……
……


ジャネット
…………
お前は心配しなくていい
サッ‥


ドカカ
ドカカカ
ドカカ‥
ドカカ‥
ドカカ
なにが昔のよしみだ!
親父……
ザッ
!
父さん……


俺は若い時
雑兵として戦場に出ていた
……
その時の隊長がロベールだった
奴はザールブリュッケン伯家の出身で隊長級の地位を与えられてはいたが、所詮俺達と同じ食い詰め者だった
俺はその下で戦の不毛さをいやというほど味わい
農民になると決めたんだ


畜生ッ！
どこまで性根の悪い連中なんだ！
あんな連中に年貢を貢ぐくらいなら犬にくれてやった方がまだましだ！
わしらはまだもつだが羊どもにはここの狭さは辛かろう
うむ
ジャック
ジャックはどう思っておる
あ奴のことを知っているようだが………
……ここは手はあるまい
ヴォークルールから警備隊が来てくれるというのなら話は別だが


明日
俺が奴と話をしてみよう
ザッ‥ ザッ‥
懸け橋を下げてくれないか
うん……
やなこった
？
……水臭いじゃないか
あんたひとり行かせやしないよ


ローベル自体は箸にも棒にもかからん間抜けで卑怯な男だ
だが一旦調子に乗れば平気で残酷なことをする
昔 会ったときより人相がひどくなっていやがった
野盗の頭におさまるだけのことはしてきたようだ
じゃあわしらが大人しく従っても
安全だという保障はないわけだな
うむ
だが俺達にも手はない半年もここにいてはひからびる
選択の余地なし……か


ウウ…
ウッ
ウウッ
助けてくれッ!!
ヒッ
助けてくれッ!!
ジャーック!!
ウワアアッ!!


連中があんたに乱暴を働くというんなら結局わしらにも働くことになる
それを見届けにゃあ
とにかくこいつは災難だよ
あんたの後ろに俺達が続いていればちいとはおさえになるんじゃないか
へへへ・・・
皆……
わかった一緒に行こう
皆がその気持ちでいるんなら奴らに手出しなどできるはずがない



ヒア！
バシャ…
腕が！
!!
ユラア…
あの場から動かんでくれといったろ
隊長さん
わッ！……悪かったジャック


野郎ッ!!
ザッ


ハア
ハア
ムク…
ハア
ガタッ
大将！村の連中が押し掛けてきましたぜ！
ぬっ…
ジャックの野郎を先頭にしてぞろぞろと
ジャコめ
百姓共は道具は持ってんのか！
へ？
ズカ
ズカ
戦さ支度をしているのかと訊いてるんだ
ガタッ
そいつはないようですが……


考えなしの行動はやめてくれ！
ザッ
勘違いしないでくれよ
こうやってあんたを助けているのは
別にあんたが隊長だからじゃねえ……
自分が死にたくないからだ！
あんたも死にたくないなら！
俺の言うことを聞くんだ!!
ウッ！


ガラン
ガラン
カッ
カッ
よう
待たせたな
ジャコ
ザワ…
なにも雁首揃え
て来るこたぁ
なかったのによ


ヘッ…まあいいいさ
雑魚共が景気をつけてるんだろうよ
ザッ…ザッ…
だがいいか囲んでおけよ百姓共が妙な動きをしたら遠慮無く叩っ殺せ!
言われるまでもねえです
バタン…
おどかしやがるぜ
ジャコが本気で抵抗すんのなら厄介になるところだった
畜生め! 今は違うんだ
思い知らせてやる!!


それと仕事の邪魔だ！
すぐにでも薄汚い連中と一緒に立ち退いて貰おう!!
薄汚い何だとッ!!
ウッ
まあまあ
薄汚ねえのはお互い様よ言われるまでもねえ
こんなつまらん所にいつまでも居てたまるか
では話は終りだな
……まあ待てジャコ
本番はこれからだぜ


………
で…返事を聞こうか
要求をのむ
あ?何って言った
お前の言う通りにしてやると言っている
ホウッ
そうかい物わかりがいいねえ
だから村の者に絶対手を出すな
これだけ守られれば俺達も約束を守る
そうかい オオッ そうとも
俺も男だ約束しよう
お前らが納税を怠らん限りは何もせんさ



ドンレミグリュの百姓共ッ!!
俺はたった今からここの領主だ!!
お前らの言葉は聞いた
今度はそいつを皆に見せてやれ!
ええ分かるだろうジャコ
証文でも出せというのか
ヘッ!
そんなものを貰っても仕方がねえ


ここへ
村人全員を
集めろ!!
ど…
どういう
つもりだ!
………
今からここの
領主様に
なるんだぜ
それ相応の
挨拶が
あるだろう
………
親父……
仕方ない
いう通りに
するんだ
ザワ…
ザワ…



ザッ…
ザワ…
ヘヘッ…
ざまあねえなァ
ジャコ
ザッ



ジャコ
お前が皆を代表して臣従の形というやつを見せてくれりゃあいい
ザワ…
俺の前でひざまずくんだ
何だと！
よせッ
親父！
ザッ…
ザッ
ザッ
ザッ…


ヒヒヒヒッ
ウェヘヘヘッ
父さん!!
ヒュウウウ……
ヒュ
やめて…父さん!
どうした
ジャコ……
ん?


靴にキスをしな!
親父ッ!
ザワーー!
今後 お前らの剣となり盾となる俺達だ
ハハハ…
筋が通らねえ
ありがたく思って貰わねえと


ピエール
大丈夫か!?
兄貴!
村の者に手を出すな!!
シ・ーーー・ン
……やめろ
ゴク…


親父やめろッ!!
豚野郎調子に乗るなよ!!
ダダッ
痛てててッ!!
ドサッ
ダッ


!?
ん?
ロベール
敵にすきを
みせるなよ



ニヤ‥
よ～し いいだろう!
このロベール・ド・ザール ブリュッケン!
お前らの気持ちはよ～く分かった!!
シ――――ン・・・


もし
きさまが約束を
破れば地の果て
まできさまを
追い……
殺す!!
行けよ
ガハハハ..
か……
片は付いたな
見た通りだ!!
ヒヒッ!


いつでも
殺せたぜ
短剣が
腹に伸び
立てば
首を絞め
素手で
急所を砕き
首の骨を
へし折る
俺にここまで
させたんだ
これでもしお前
と手下が村の者
に手を出したと
分かれば
ロベール!
その時は
分かって
いるだろうな
ガチ
ガチ



さあ…
帰ろう
だめだ
動かねえ
ジャネット


引き上げるぞッ!!
こんなド田舎 俺達にはむいてねぇ!!
ザ…
ザ…
ザ…
ザ…
ウ
ウウッ

D'arc

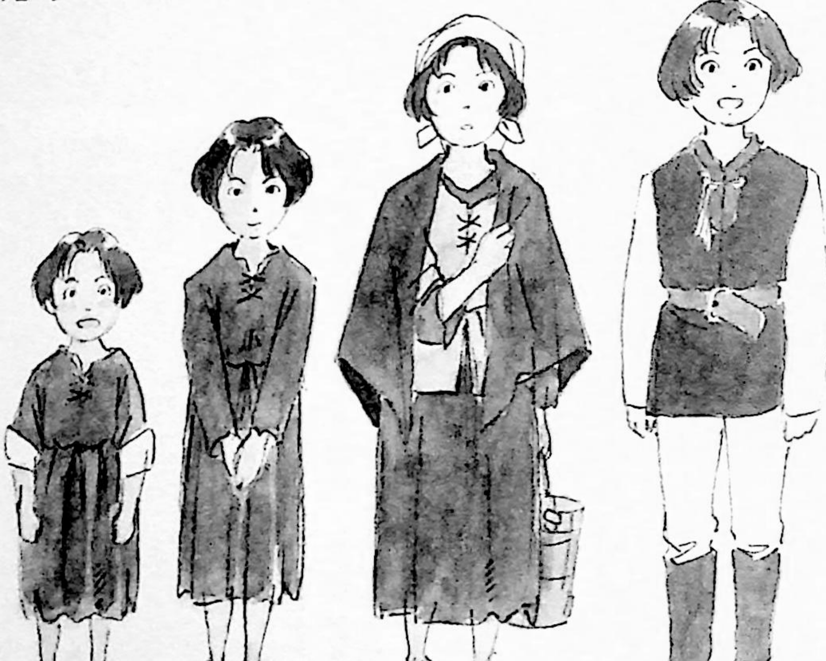
Super Heroic Fantasy

対談

僕ら日本人がつむぐ新しい乙女ジャンヌの物語

酒見賢一

近藤勝也



百年戦争末期、戦乱のフランスに現れた乙女ことジャンヌ。
酒見賢一、近藤勝也両氏はどのようなジャンヌを描くのか？
連載前、「アニメージュ」('94年 7月号)に掲載の対談を再録。

「D'ARC」はこうして生まれた！

――酒見さんが物語を、近藤さんがマンガを担当してジャンヌ・ダルクの物語「D'ARC」を描かれるわけですが、この企画はどういう経緯で起ち上がったんですか？

近藤　きっかけは酒見さんに最初にお会いしたころまでさかのぼるんです。最初にお会いしたのは、酒見さんの小説「後宮小説」をアニメ化した「雲のように風のように」に僕が作画監督で参加した後くらいかな。僕が酒見さんに会いたいと思った理由には、小説を読んで、いったい酒見さんとはどんな人なのだろうという興味があったのと、それとは別にアニメーションなどのビジュアルに興味があるならば、一緒に仕事ができないかな、という色気がありました。酒見さんの小説をアニメにしたいという話をすると、「5年待ってほしい」と言われました。

酒見　いや、僕はそんなストレートには言いませんよ。僕が小説を書いて、それをアニメ化してもらうのがいちばんいいんだけど、その作業を専属でやるとなるともう少し時間がほしい、と言ったんです。それが4年前。



※ラ・ピュセル——王太子宮に入ってからは彼女のことをジャンヌ・ラ・ピュセル(乙女もしくは処女)と呼ばれていた。

第一章・完

て、ジャンヌ自身の姿が見えてこないんです。評伝にするならば起こった現象を時系列順に並べていけば済むから簡単なんです。でも、マンガだからエンターテインメントなわかりやすい話でなくてはならない。実際は混乱して悩んでいる次第です。

近藤　酒見さんが悩むと僕はもっと悩んでしまう(笑)。人物としてのジャンヌを考えるとわからなくなってくるんです。

酒見　物語が進んでいくうちに答は出ると思うんですけど。でも近藤さんの絵がありますからね。僕は安心してる。

――近藤さんの描かれたジャンヌは史実に基づいた丸顔ですね。

近藤　ええ。これはヒントになってます。個人的にはいかにもなにかやりそうな顔ってツラいんです。試しにちょっと妖艶で眼光鋭く、自分の意志でなんでもやるのよ、みたいなジャンヌを描いてみたんです。でも厚かましくてイヤなんです。それで史実どおりの丸顔にしました。ジャンヌは恐ろしく純朴で無垢な存在、中途半端じゃないから逆に怖い。そういう部分を強調したかったんです。

酒見　ジャンヌは完全な救世主という形では描かないつもりだから、近藤さんの描かれたイメージだと僕も思います。だってジャンヌは正義の味方じゃないですもの。正義の味方だったら神のお告げで行動したのに、火あぶりという悲惨な結末はないはずですから。

日本人が描く “ジャンヌ・ダルク”

――物語は今後どのように展開していくのですか。

酒見　実際に起こった史実はなるべく出すようにします。ただジャンヌを描く場合、神のお告げや、ブランタンなどの妖精に代表されるような外部存在はほんとうにいるのか？　超能力はあるのか？　こういった事象は避けて通れないと思っています。実際、処刑裁判でもジャンヌは神の声を聞いたと語っているわけだし、自分がイギリス軍の捕虜になることも神のお告げで事前に知っていたわけですし。そういったある種の超能力みたいなジャンヌの力を、説得力ある形で描かなくてはいけませんしね。でも最後まで妖精を出すことには近藤さんは反対してましたよね。

近藤　ジャンヌにとっては自分の生活する現実の世界も、妖精のいる世界も同等の価値観をもって存在するのはおもしろいことだと思うんです。でも、単純に妖精だからといって、トンガリ帽子をかぶってワーイ！なんてイヤじゃないですか(笑)。僕はどんなものでもいったん自分の中に取り込んで、消化してからじゃないとダメなんです。今は消化した後だから、こだわらずに妖精も描いていますし、おもしろいものができるんじゃないかと考えてます。

酒見　近藤さん流のリアリティにはとても期待しています。それと同時に、はたしてキリスト教と全く無縁の日本人二人がどこまでジャンヌを誰もが納得する形で描けるのか？　そういう不安もありますね。

近藤　そうなんですよ。ただでさえ宗教とは無縁の日本人なわけでしょう。キリスト教が生活の中心にデ～ンと存在していた中世の人たちは、どんなことを考えて、どういうふうに日々を過ごしていたのか。あれこれと考えてはみるんだけど、やっぱりわからないんですね。

酒見　逆に西洋人にはできない大胆な切り込み方ができるから、今までにないジャンヌ・ダルクになるでしょうね。●

（'94年5月　東京・新宿にて）



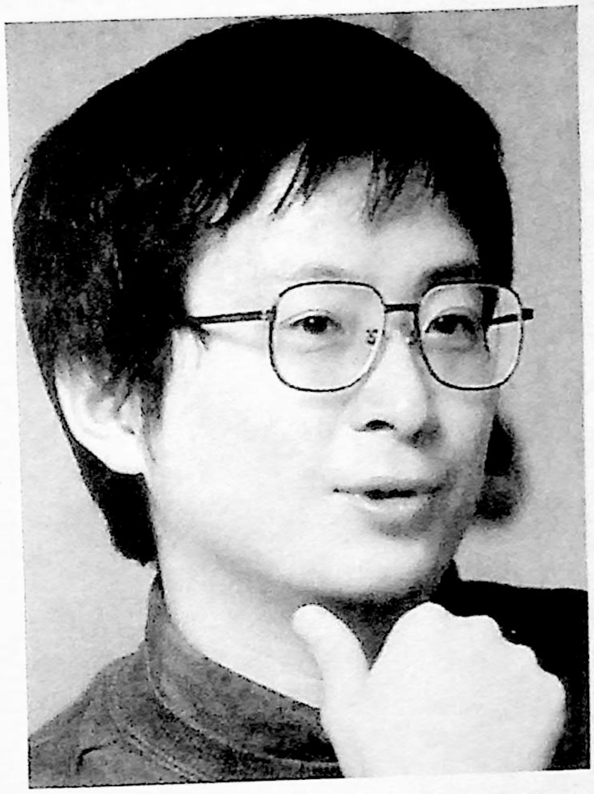
▶“ドンレミ村のジャンヌ”と題されたラフ。近藤さんが「自分の意志でなんでもやるのよ」と語るジャンヌの発展形と思われる。なかなかの美人と思うが、どうか



近藤　勝也

［こんどう　かつや］

アニメーター。'63年6月2日、愛媛県生まれ。'83年あんなぷるに入社。'85年フリーとなる。スタジオ・ジブリ作品「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」で原画、「魔女の宅急便」でキャラデザイン、作画監督を担当。「後宮小説」「海がきこえる」のキャラクターデザイン、作画監督を経て、今回「D'ARC」で初のマンガに挑戦する



酒見　賢一

［さけみ　けんいち］
小説家。'63年福岡県久留米市生まれ。'89年「後宮小説」で第1回日本ファンタジー大賞を受賞、小説家としてデビューをはたす。主な作品に「後宮小説」「墨攻」「陋巷に在り　1　儒の巻」「陋巷に在り　2　呪の巻」がある。「D'ARC」でそれまでの東洋世界から一転、ジャンヌ・ダルクを主人公に据えて、中世ヨーロッパ世界に挑む

でも、そうやって考えるとずいぶん前から頼まれていたことなんですね。

近藤　その後も酒見さんとはちょくちょく会ってはいたんですよね。その間もいろいろと企画はたてていたんですけど、えーと、去年の夏でしたっけ。

酒見　グズグズやっていないで、そろそろ決めようかということになって。僕は4年前から約束しているから逃げるわけにはいかないと思っていたし。そうしたら近藤さんが「ジャンヌ・ダルク」はどうだろうって。

近藤　その辺をくわしく説明しますと、最初に酒見さんが提示した題材はふたつあったんです。ひとつは「ジャンヌ・ダルク」で、もうひとつは満州もの。

酒見　満州ものは以前からやりたいと思っていた題材なんですよね。第2次大戦中の中国で活動していた馬賊とかって、とても魅力的なんです。岡本喜八監督の映画「独立愚連隊」や「どぶ鼠作戦」みたいにエンターテイメントな形で馬賊を描けないかなぁと考えていたんです。一方のジャンヌはというと、うーん。「君の瞳は10000ボルト」という歌で"20世紀のジャンヌ・ダルク"という歌詞があるんですよ。カラオケでときどき歌うから、なんとなく「ジャンヌ・ダルク」って頭に浮かんだんじゃなかったかな(笑)。



▲ラフデザイン段階、甲冑姿で丸顔のジャンヌ。近藤さんのラフには丸顔でもいろいろなタイプのジャンヌが描かれている。なかでもこれはマンガのジャンヌに近い

近藤　え？　ちゃんとした意図もあるじゃないですか。酒見さん、それを言わなくては。

酒見　いや、あるにはあるんですけどね。一応「ジャンヌ・ダルク」を通して、僕自身あまり知識のないヨーロッパ文明に接触しようというねらいと、たった一人の女のコでも世界を変えられるというテーマがあります。

――酒見さんと近藤さんの話し合いの中で出てきた「ジャンヌ・ダルク」は、この時点ですでにマンガという形で描こうと決めていたんでしょうか？

近藤　少なくとも僕にはそのつもりはありませんでした。酒見さんが原作を書かれて、僕がチョコチョコっと挿し絵を描くというものを想像していたんです。できたらその方がいいなぁ、なんて(笑)。

酒見　絵物語じゃだめだって反対したんです、僕が。これはマンガでなくては成立しないと、近藤さんを説得して、無理矢理マンガにしてしまいました。

――一般読者からすればいままで発表された酒見さんの作品は非常に東洋史的な色合いが強いという印象があるのですが、その酒見さんがなぜ中世ヨーロッパを描こうと思い立ったのか、非常に興味深いものがあるんですけど。

酒見　なにか、大きなきっかけがあって、ヨーロッパを取り上げようということではないんですよ。僕の中では中国ものにしても、よく知らないという部分では同じなんです。なにもかも知ったうえで書くのはつまらないと、僕は思っているんです。知らないものをどういうふうに料理しながら自分のものにしていくか？　そういった試行錯誤しながら物語を組み立てていく過程をおもしろいと思っているんです。

ジャンヌって どんな女のコ？

――ジャンヌ・ダルクというとフランスを救った少女、世界史の教科書で旗を持っている女のコといった知識しかなかったんですけど、ちょっと調べたら驚くほど複雑な背景の中から、忽然と出現した人物なんですね。

酒見　そうなんですよ。ちょっと調べ始めた時点で、ジャンヌってとんでもなく難しい人物なんだと気づかされました。一歩間違うとただのおかしな少女にしか見えないし、百年戦争という歴史的背景と混然一体となっ

【た行】

タヌギィ・デュ・シャテル



ジャン・サン・プールにとどめを刺した兵士。元パリ代官で、1415年アルマニャック派が支配したパリで、シャルル王太子をヴァンセンヌ城から危機一髪で救出した功績を持つ。

【は行】

ピエール・ダルク



ダルク家の次男。普段はぼーっとしているが、ザールブリュッケンの襲撃時には機敏に行動。ジャック・ダルクの息子であることを証明してみせた。ジャックとジャックマン不在時のダルク家の精神的な要でもある。

ブランタン



ジャンヌの親友である地の精。ドンレミ村の森はずれにある妖精の木にいる。ドンレミ村の5月の祭りで元気に踊るジャンヌに好意を寄せている。マールとレーネがジャンヌを使ってなにかを企んでいると思い警戒している。

ブルゴーニュ公
ジャン・サン・プール（無畏公）



当時、フランス王国で最も権力を持っていた男。サン・プールは称号で、無畏公の意味で何事も恐れないということ。王妃であるイザボー・ド・バヴィエールと共謀して、シャルル6世をおさえ事実上のパリの主となっている。イギリス王国との血縁戦略を展開し、イギリスにフランス侵略計画の足がかりを与えてしまった張本人。1419年9月10日モントロー橋上でシャルル王太子と会見。その席上で随行してきたジャン・ド・ヌーシャルテルの裏切りに遭い、タヌギィの戦斧を頭部に受けて絶命する。ジャン・サン・プールの死によって、フランス国内は一層の混乱を極めることになる。

ブルゴーニュ公
フィリップ・ル・ボン（善良公）



シャルル王太子の最大の敵となるブルゴーニュ公を継いだジャン・サン・プールの息子。この時23歳。その政治的手腕は父親以上で、当主となりすぐにイギリスとトロワ条約を締結。また、王太子以下7名をジャン・サン・プール殺害犯として王国から追放処分にしている。

プティ・ジャン



ダルク家の三男。ヤサ男風だが、有事の際はテキパキと行動する。妖精と語るジャンヌを目撃するが子供特有の空想と思っている。

ヘンリー6世



ヘンリー5世の息子。1422年8月に父・ヘンリー5世が没し、イギリスとブルゴーニュ派によって、英国、仏国両国の王位を継承。ただし、戴冠をしたのはわずかに生後10カ月。フランス王国の実質的な政務は叔父のベドフォード公が執ることになる。

ベドフォード公



イギリス国王ヘンリー5世の弟。ヘンリー6世のフランス王国での摂政を務める。

ペレラン



乳しぼりの娘を口説いて憂さ晴らしをする妖精。瞳で婚姻を占う能力を持っていて、ジャンヌの瞳の中に未来の婿を見ようとするがなにも見ることができなかった。

【ま行】

マールとレーネ



一卵性双生児のようによく似ている木の樹霊。貴婦人の木の別名を持つ妖精の木に住んでいる。森が生きつづければそれで良い、捧げものもしなくなった人間など守る必要もないという、妖精にしてみれば当然の考えを持っている。野盗から村を守ってほしいというジャンヌの願いを拒絶し、ジェジュ（イエス・キリスト）にお願いするようにうながす。ジャンヌを利用してなにかを企んでいる節もうかがえるが、まだはっきりとしない。

マリ（ガスク）・ダヴィニヨン



もと巡礼の修道女。苦行を積み幻視者（ヴィジョネール）となった女性。信仰に近い形で民衆には受け入れられており、世間に広く知られていた魔女の系譜につらなる女性。1420年の初めにポワティエのシャルル王太子のもとを訪れ、甲冑の乙女が王国を敵の手から救うという幻視を伝える。その礼に銀貨2枚を受け取り辞去する。

【や行】

妖精達



妖精の木に集う四元素霊（エーレンタール）のことを指す。自分達を視ることのできるジャンヌに、誰もが好意を寄せている。

【ら行】

ロベール・ド・ザールブリュッケン



神聖ローマ帝国の諸侯のひとりザールブリュッケン伯家の持てあまし者。ドンレミ村から徴税しようとやってきたエコルシュールのひとり。まだ若いはずなのに肥満しており、手下へのしめしのため、大して狂暴でもないくせに時々声を荒らげてみせる。最初にマクセイ村を襲い、村人を皆殺しにしてドンレミ村に脅しをかけた。その昔、ブルゴーニュ公配下の小隊隊長として戦争に参戦。その小隊にジャックがいた。ロベールは隊長としては無能であったから、ジャックの補佐なくしては生き残ることはできなかったであろう。ロベールはジャックに大きな借りがあるはずなのだが、自分よりもはるかに人あしらいのうまいジャックに嫉妬に近い気持ちをもっている。ドンレミ村襲撃の機会に屈辱を味わせようと考え、形の上ではジャックを膝跪かせることに成功する。しかし、ジャックから村民に危害を加えたら殺すと逆に脅されて、二人の間での勝敗はロベールの精神的な敗北に終わる。これから5、6年の間、ロベールはドンレミ村の領主となるが、新たな勢力の出現にすぐに逃げ去ったという。

D'arc 登場人物名鑑

ジャンヌはまだ8歳。この少女が成長するまでに何人の人々と出会うのだろう？ここで物語をつむぎ始めたジャンヌと第1巻の登場人物を紹介していくことにしよう。

【あ行】

イザベル・ロメ
ジャンヌの母親。ヴートン村の出身。家事全般をこなし、ジャンヌと末っ子のカトリーヌに糸つむぎを教えるといった生活を送る、典型的な農家を預かる主婦。キリスト教徒で子供達がイエスを強く信仰するのも、彼女の教育のたまものである。



エロー師
（ジャン・エロー）
王太子につかえる神学教授。マリ・ダヴィニョンと王太子の謁見に立ち会う。後に……シノン城にやってきたジャンヌが、予言の「甲冑の乙女」であると確信することになる。



【か行】

カトリーヌ
ジャンヌの妹。ジャンヌとともに糸つむぎ、種の選り分けなどをしている。ジャンヌとはほとんど年の差がないので、姉妹というよりも友達の感覚に近い。ジャンヌのように自分も妖精達を視てみたいと考えている。ジャンヌと違って少々身体が弱い。



ごろつき兵士
ドンレミ村から税金と称して貢物を得るため、世話役であるジャックを脅迫にきたザールブリュッケン配下の3人組。しかし、ジャックに鍬1本で追いかえされて以降、ジャックを憎悪する。



【さ行】

シャルル・ド・ヴァロワ
（シャルル7世）
痩身で神経過敏、いつもなにかに脅えているような少年。シャルル6世（シャルル狂王ともよばれる）の5番目の男子。12歳くらいの時、ルイとジャンの二人の兄が相次いで没っしたため、王太子の位置に立つことになる。シャルルの王位継承権を認めることを嫌ったパリの実質上の主、ブルゴーニュ公ジャン・サン・プール、実の母親、イザボー・ド・バヴィエールからうとんじられている。実の母に拒絶されたことが元で、生涯自身の出生に疑惑を持ち続けることになる。1419年9月10日、モントロー橋上で、シャルル王太子は諸悪の根源・ジャン無畏公を暗殺。この暗殺でフランス王国の実権を掌握できると踏んでいた王太子であったが、暗殺の責任追求が王太子に迫り、やむなくポワティエへと帰ることとなる。そこで幻視者マリ・ダヴィニョンの「甲冑の乙女」の予言を聞くことになる。実際、「甲冑の乙女」ことジャンヌと出会うのは先のことになるが、幼いジャンヌと夢の中で遭遇する。



ジャック・ダルク
ドンレミ村の世話役（ドワイアン）的な役目を担う富農。まじめで忍耐強く信仰に篤い男。勢力分布によって流動的立場をとらざるをえないドンレミ村の、仮村長として王家貴族と応対しなくてはいけない。その難しい立場を、懸命にこなしている。昔、ブルゴーニュ公配下の部隊の隊長について戦場稼ぎをしていたことがあり、その時の隊長がロベール・ド・ザールブリュッケンであった。無能なロベールの巻き添えをくって死ぬことをおそれたジャックは、目立たぬようにロベールを補佐して危機をのりきった。ジャックは軍隊が解散となると、農民になって出直すことを誓いドンレミ村に腰を落ちつけたという。



ジャックマン
ジャネットの兄。ダルク家の長男。父親に似て背が高く落ちついた男。ジャンヌとは年も離れていて叔父といってもおかしくない。



ジャン・ド・ヌーシャルテル
王太子に買収されて、ジャン無畏公暗殺に協力する。モントロー橋上の会談場所へジャン無畏公を閉じ込めると、脱兎のごとく逃亡する。



ジャンヌ・ダルク
神聖ローマ帝国に近接したロレーヌ辺境のドンレミ村に生まれた少女。生年月日は諸説あり定かではない。1419年当時は6歳もしくは7歳くらいだというから、1411年もしくは1412年の生まれだと思われる。妖精達を視ることができる特殊な力の持ち主。それ以外は母親に糸つむぎを習ったりするいたって普通の農民の少女である。丸顔の健康そうな顔はとりたてて美少女でもなく、かといって醜いというわけでもない。いつも礼拝をかかさない、熱心なキリスト教徒である。ドンレミ村の森のはずれにある妖精の木に足しげく通う。マクセイ村の襲撃を目撃し、呆然とするなかでシャル王太子と精神感応をする。しかし、ジャンヌにはその相手がだれであるのかはまだわからない。父のジャックを強く尊敬していて、誰にも屈しないと信じていた。野盗団の首領ザールブリュッケンに膝跪く父親の姿を見て、衝撃を受ける。ジャンヌが神の声を聞くのはまだ先のことである。



ジャン・ミネ
ドンレミの教会を預かっている神父。ジャンヌに洗礼を授けた。ジャンヌが、鎧を身にまとった乙女に姿を変えるという幻視を目撃。



[illegible]この木の周りを若い男女が歌い踊る陽気な祭である。ジャンヌの悪夢の中に登場した1シーンがその5月の祭の光景であろう。その時に歌われていた歌「美しい森の／小さな／ウグイスよ／お前は／昼も夜も／ないている／さあ／五月が／やってきた／娘たちよ／恋をしなさい／ああ／美しい歌声よ／どうか／恋が叶うまで／なきやまないでおくれ」の出典は、フランス中部イヴェルネ地方の古謡「リトルネロ」である。

黒死病［こくしびょう］
　現在ではペストであると考えられている伝染病。黒死病がフラン



▲死神が運ぶと恐れられた黒死病

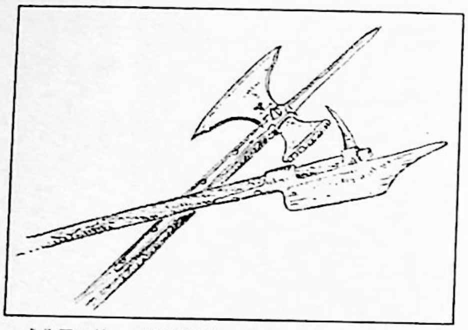
ス王国を最初に襲ったのは、1347年～1350年にかけてのこと。黒海のクリミヤ半島の港町カッファ。ここに位置したジェノヴァ商人の根拠地で最初に発生した。ジャンヌが生まれてからは、1418年8月にパリで発生している。ボッカチオの「デカメロン」の中の表記によれば、最初に股間、もしくは腋の下に腫瘍ができる。腫瘍はまたたくまに全身に渡り、黒色か鉛色の斑点に変わり、ほとんどの者が3日以内に死んだという。

コンパニー→エコルシュール

【さ行】

戦斧［せんぷ］
　木の伐採を目的に作られた道具。しかし、戦闘時の白兵戦では強力な武器となる。中世では鋼鉄製のものが用いられた。手投げ式の斧をトマホークと呼び区別する。

ジェジュ→イエス・キリスト

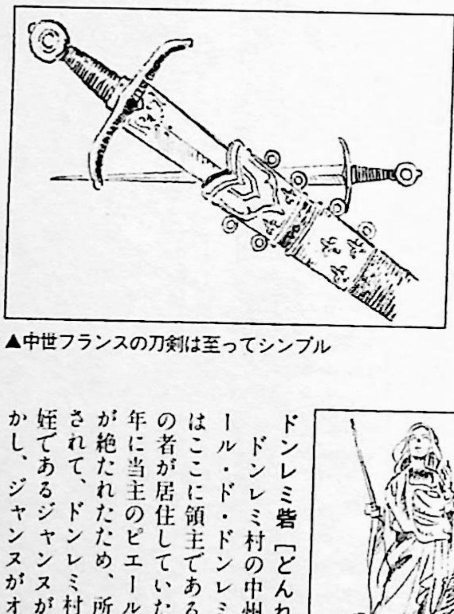


▲式典用に比べて戦闘用斧は実用的な作り

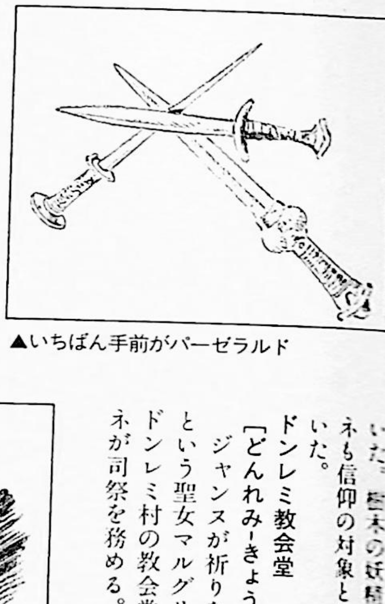
【た行】

短剣［たんけん］
　基本的な武器として世界各地で石器時代以来、使用されてきたのが短剣である。ヨーロッパでは青銅器時代の刃と柄を一体とした構造のものが多く作られてきた。ジャンヌの時代、庶民でも簡単に入手が可能な短剣は、最もポピュラーなものであった。形としては鍔と柄頭に横棒のついているバーゼラルドが多用されたようだ。

刀剣［とうけん］
　騎士の携える主力武器。北欧の装飾の施された刀剣と違い、十字型の単純なつくりのものが多い。



▲中世フランスの刀剣は至ってシンプル



▲いちばん手前がバーゼラルド

中世初期は切断を目的とした幅広の刃を備えたものだったが、ジャンヌの時代では細身の刀剣が一般的なものとなっていた。それというのも、騎士の鎧が打ち出し鎧から、板金鎧となったため。板金鎧は継ぎ目を攻撃されると、攻撃を防ぎようがなかったという。

ドルイド［どるいど］
　昔のヨーロッパ人の古い土着宗教の祭司階級の名。キリスト教がヨーロッパに伝播する以前は、土着宗教は庶民に根強く支持されていた。樹木の妖精・マールとレーネも信仰の対象として崇められていた。

ドンレミ教会堂［どんれみ-きょうかいどう］
　ジャンヌが祈りを捧げに通ったという聖女マルグリット像を祭るドンレミ村の教会堂。ジャン・ミネが司祭を務める。



▲聖女マルグリット像

ドンレミ砦［どんれみ-とりで］
　ドンレミ村の中州に建つ砦。イール・ド・ドンレミともいう。昔はここに領主であるブールモン家の者が居住していたが、1412年に当主のピエールが没し、男系が絶たれたため、所領は解体相続されて、ドンレミ村はピエールの姪であるジャンヌが継承した。しかし、ジャンヌがオジェヴィエ領主と結婚、死別後にザルム伯と結婚したため、支配する領主を失ってしまった。こうして空き家となっていた砦は、ジャック・ダルクほか数人が資金を出し合って村の所有物となったのである。

ドンレミ村［どんれみ-むら］
　神聖ローマ帝国とフランス王国の支配権が複雑に入り組んでいるムーズ川に沿った全長1キロほどの小さな村。12世紀からはバール公領に属するブールモン家が領主を務めてきたが、その後1412年に男系が絶えて、直接統治する領主を失ったため、周囲の治安は悪化。1420年代は掠奪される危険性が増大していた。農業と羊の放牧を生業とし、小麦、ライ麦（秋まき）、大麦、からす麦、豆類（春まき）の三圃式農業を行っていた。

【な行】

長弓［ながゆみ］
　ウェールズ、イギリスで使用されたものが有名。主にイチイなどの材料から製造された。最大射程は約255メートル。毎分発射数は約6本と弩をはるかに上回る。このため、強力な弩が登場しても弓の需要はすたれなかった。



▲長弓と弓兵

【は行】

羊［ひつじ］
　麦の栽培とともにドンレミ村の経済を支えてきたのがこの羊。食用ではなく羊毛を採取するために放牧していた。毛織物の技術はギリシア・ローマ時代を経て様々な改良が施されて、中世では質的、技術的にも毛織物は向上をみせている。羊毛を糸に紡ぐまでの工程は次の通り。刈り込んだ羊毛の品質を選別、汚れや油を洗い落とす。羊毛をけば立て機で梳き、柔らかくなるまで解きほぐして繊維を分解する。長い繊維をより分けて並行に並べていく。この作業を梳毛

D'arc

基礎知識 辞典

『D'arc』の物語世界を彩る様々な物、事象をここで解説する。今後、ジャネットが深く関わるであろう物事を多く取り上げた。物語をより楽しむためにも、ぜひ読んでいただきたい。

【あ行】

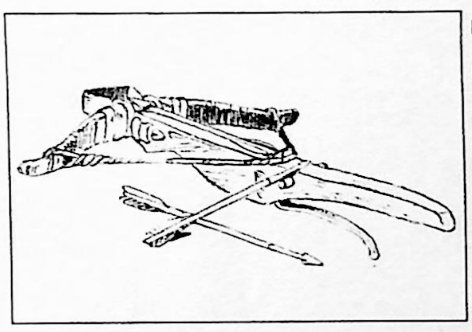
アルマニャック派
［あるまにゃっく-は］
　1400年代、王家に忠誠篤いた南フランスで大きな勢力を持っていたアルマニャック伯の名を冠したフランス2大勢力のひとつ。その中心人物であったシャルル・ドルレアン（オルレアン公シャルル）がアルマニャック伯の娘・ボンヌと結婚したことから、アルマニャック派と呼ばれるようになった。物語が始まる1420年代、アルマニャック派は対立するブルゴーニュ派に押されて形勢不利。やむなくブールージュを中心にシャルル王太子が政府を構えているという状態であった。

イエス・キリスト
［いえす・きりすと］
　北パレスチナのナザレの大工ヨセフと、その妻マリアとの間に生まれた子。30歳頃出家して洗礼者ヨハネから洗礼を受け、神の国の来臨が近いことを予言。ユダヤ民族の悔改を迫った。はじめはガラリヤ地方で活動していたが、のちに首都エルサレムへ。そこでパリサイ派や祭司階級を批判したため、ゴルゴタの丘で十字架に磔刑にされた。イエスが死後3日目に復活したと確認した弟子たちは、イエスを「油注がれたる」教主と信じて、新運動を開始した。これがキリスト教へと発展した。


▲キリスト教の十字架

イギリス王国［いぎりす-おうこく］
　わずか1歳にも満たないヘンリ16世を国王とする王国。前王ヘンリー5世の時代に、フランス王国のノルマンディーとグイエンヌ地方を支配する。フランス王国での摂政を務めるベドフォード公とフィリップ善良公との間でトロワ条約を締結。ブルゴーニュ派と結託してシャルル王太子追い落としを画策する。

弩［いしゆみ］
　14世紀に長弓と共に戦闘で多用された手投げ武器のひとつ。柄に弓が取り付けられていて、機械的に弓を発射する装置がついている。使用法は手で弦を引いて弦受けにかけて、太矢を溝にいれて矢筈を弦受けに固定。照準を定めて引き金を押す。これが基本的な弩の使用法で、弓術を知らない人間でも正確かつ強力に矢を発射することができる。最大射程距離は約360メートル。ラルフ・ペイン・ギャルウェイ卿の資料によれば、矢尻の硬度が高ければ板金鎧を貫通できるという。ゴーツフット（山羊脚）レバー、巻き上げ機といった、弓を引く装置が発明されてからは威力も倍増した。


▲最も一般的な弩。劇中ではジャン無畏公暗殺に登場

糸つむぎ［いとつむぎ］
　糸つむぎ棒、糸つむぎ器、かせ繰り器を使い、羊毛をこよって糸にしていく作業。ヨーロッパでは昔から女性の仕事と位置づけられていた。


▲糸つむぎ道具一式

ヴォークルール［う゛ぉーくるーる］
　ドンレミ村から北20キロに位置する人口3000人の都市。直接支配する領主のいないドンレミ村の領主的な立場にある。

エコルシュール［えこるしゅーる］
　正しくは皮革処理業者を意味する。しかし、ジャンヌの生きた時代ではザールブリュッケンのような追い剝ぎ団、盗賊団をこう呼んだ。13世紀からこの時代にかけてフランス各地の森を武装集団が横行していた。いわゆるコンパニー、グランコンパニーといわれる者達である。普通は50人から100人の人数で構成され、金品、家畜、食料、婦女を掠奪しながら各地を点々とする。コンパニーはそのほとんどが戦さにあぶれた傭兵達であったが、中には由緒正しい家柄の子孫、封地を離れた小貴族、貧困のため流民となった農民なども混じっていた。ガスコン人、ナヴァール人、スペイン人、イギリス人、ドイツ人、フランス人と雑多な集団である。しかし、戦さの時には王侯に雇われて戦う。有名な掠奪王ロドリコ・ド・ヴィンランドはブルゴーニュ公やシャルル七世に雇われてそれなりの戦功をあげていた。

【か行】

グリュー村［ぐりゅー-むら］
　ドンレミ村の1キロ先に位置する村。ドンレミ教会堂を管轄に置く教会があった。

甲冑［かっちゅう］
　13世紀は鎧職人によって長鎖帷子（オーベール）が、兜職人によって兜が作られていた。本編中で登場しているジャンヌの甲冑は、恐らく1429年4月5日にトゥールにおいて製作を依頼したものであろう。これはコラ・ド・モンバゾンという甲冑師によって作られたもので、身体に密着し、両手足の関節も可動するものだった。また貴族のもののように飾りはなかったという。


▲質素なジャンヌの甲冑

貴婦人の木→妖精の木

キリスト教
［キリストきょう］
　パレスチナから起こった、イエス・キリストの人格と教訓を中心とする宗教。正義と慈愛に満ちた父なる神と、人類の罪、キリストによる贖罪を説く。中世の人々はキリスト教の教義に基づいた強迫観念ともいえる戒律の中で、生活していた。

五月のお祭り
［ごがつ-の-おまつり］
　ドンレミ村では毎年5月に、妖

1417年

●[illegible]

●アルマニャック派、パリを支配。

●1378年来続いていたシスマ(教会大分裂もしくは大離教)一応の終結。

3月 ●季節外れの大雪パリを襲う。

8月1日 ●新たなイギリス軍、ノルマンディーに上陸。

9月 ●ジャン無畏公軍、パリに肉薄。

1418年5月29日 ●蹄鉄商人ペリネル・クレルク一派の誘導によりブルゴーニュ勢、パリに入場。カボシュ党再び勢力を得る。

●ジャック・ダルク、村人数人とドンレミ村の中州にある城館を砦として購入。

6月12日 ●シャルル王太子、パリを脱出。

7月14日 ●ブルゴーニュ公ジャン無畏公とイザボー・ド・バヴィエールバリに入城シャルル王太子、ブールジュに仮政庁樹立。

7月29日 ●イギリス軍、ノルマンディーの中心であるルーアンを包囲。

8月 ●パリに黒死病流行。

1419年1月20日 ●イギリス軍、ルーアン占領。

5月 ●ヘンリー5世、トロワに進軍。

5月30日 ●ムランでイギリスとフランスの会談開かれるが、交渉決裂。

9月10日 ●ジャン無畏公、シャルル王太子とフォンテーヌブロウ近くのモントロー橋上で会見。その席上、暗殺される。この事件はシャルル王太子のトラウマとなる。

●新ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボン(善良公)登場。

●幻視者マリ・ダヴィニヨン、王太子シャルルに謁見。王国を敵の手から救うピュセル(乙女)の出現を予言する幻視を視たことを告げる。

1420年

2月2日 ●フィリップ善良公、アラスでヘンリー5世と予備条約を結ぶ。

●ジャンヌ、ドンレミ村近くの妖精の木の根本で昼寝。ブランタンに起こされ、ドンレミ村について語り合う。

4月 ●ロベール・ド・ザールブリュッケン配下のならず者3人、ドンレミ村に現れて納税を要求。ジャック・ダルク、歯牙にもかけずに追い返す。

●ジャンヌ、父・ジャック、兄・ジャックマンと共に羊を囲いに行く。父と兄の会話から、戦争が起きることを知り、ショックを受ける。

●ジャンヌ、村がザールブリュッケン配下の盗賊に襲撃される悪夢を見る。

●ジャンヌ、妖精の木に出かけて、賭けに興じる妖精たちに出会う。そこで妖精一のスケコマシとあだなされるペレランの誘惑に遭う。その際、ペレランは後にジャンヌが出会うことになるジル・ドレの姿に変身する。

●ジャンヌ、森の女王、マールとレーネに会い、ドンレミ村を盗賊の手から守ってくれるように依頼するも拒絶される。

●ジャンヌ、マクセイ村の教会で、イエスにドンレミ村を守ってくれるように祈る。神父、成長して甲冑を身に纏ったジャンヌの幻を目撃。

5月8日 ●イギリス軍、サン=ドニ着。

5月9日 ●イギリス軍、サン=マルタン付近を通過。

5月21日 ●トロワ条約締結。

6月2日 ●ヘンリー5世、フランス王女カトリーヌとトロワ聖堂で結婚しフランス王位継承が確認され、シャルル王太子は継承権を否認される。

6月 ●パリ大学のピエール・コション、トロワ条約での功績を認められて、ボーヴェ司教に推薦される。

●神学者ジャン・シャルリエ・ド・ジェルソン、パリを脱出。

●詩人アラン・シャルティエ、トロワ条約に反対する「パリ大学に告ぐ」を発表後、ロワール南方へ亡命する。

●ドンレミ、グリュー、マクセイにロベール・ド・ザールブリュッケンから脅迫状届く。村人の会議でザールブリュッケンの動向を伺うことが決定。

●夜明け前、マクセイ村、ザールブリュッケン一味の襲撃に遭い、村民全員が抹殺される。ドンレミ村全村民、中州の砦に避難。ジャンヌ、家畜を避難させようと出かけたジャックの後をついていく。

●燃えるマクセイ村を目撃したジャンヌ、ショック状態の中でシャルル王太子と精神感応(?)。

●ザールブリュッケン、ドンレミを一時占拠。

●ザールブリュッケン、ジャックと会見。その後の村民会議で納税することを決定。

7月 ●ドンレミ一帯がコメルシーを根拠地とするロベール・ド・ザールブリュッケンに掠奪される。その際、ザールブリュッケンの足元にひざまずいた父の姿を見たジャンヌ、父の情けない姿を見て号泣する。

12月1日 ●シャルル6世、ヘンリー5世と馬を並べてパリへ入城する。

12月27日 ●ヘンリー5世と王妃、帰英。

1421年1月 ●ジャン無畏公暗殺の査問会開かれる。出頭しないシャルル王太子は大逆罪を宣告、王太子を正式に廃嫡、王国外に追放を決定。

3月 ●アルマニャック軍、ブルゴーニュ勢を破り、王太子パリに迫る。

●ボージェの会戦でイギリス騎兵大敗、ヘンリー5世の弟クラレンス公戦死。その後イギリス軍の徹底的復讐で、王太子軍はロワール南方へと撤退を余儀なくされる。

12月7日 ●ヘンリー6世誕生。

1422年

●イギリス軍、アルマニャック勢に連戦連勝。

8月31日 ●ヘンリー5世没。

10月21日 ●狂王シャルル6世没。

●ヘンリー6世、イギリス・フランス両国王を兼ね、叔父ベドフォード公がフランス摂政に就任する。

10月30日 ●シャルル王太子、ブールジュへと去り、フランス国王シャルル7世であることを布告する。

1423年4月17日 ●ベドフォード公とフィリップ善良公、アミアン条約を結ぶ。

6月14日 ●ヘンリー6世摂政ベドフォード公、ブルゴーニュ公フィリップの妹アンヌと結婚。

1424年夏 ●ジャンヌ、ある日の正午頃、自宅庭先で神の〝声〟を聞く。声は光と共に右の方から聞こえたという。

8月17日 ●ヴェルヌイユの戦いでシャルル王太子軍、イギリス軍に惨敗を喫す。この戦いでアランソン公捕虜となる。

9月28日 ●シャルル王太子、フィリップ・ル・ボンと休戦を余儀なくされ、シャンベリ協定を呑まされる。

1425年

●野武士、アン・ドルリ率いる一隊がドンレミ村を襲撃。

3月 ●シャルル王太子、ビュシャン伯の後任としてリシュモン伯を王軍最高司令官に任命。

1426年8月6日 ●王太子軍、モン・サン・ミッシェルでイギリス軍を撃退。

●王太子使節団、ブルゴーニュ公に申し出て中立を要請。

1427年

●王太子軍、モンタルジの解放戦で勝利。

7月17日 ●オルレアンのル・バタール、イギリスと戦闘休止金支払いに関する協定を調印。しかし、ベドフォード公の承認が得られず不成立に終わる。

1428年5月 ●ジャンヌ、ビュリ・ル・プチ村のデュラン・ラクサール家に出産の手伝いのため逗留。

5月13日 ●ジャンヌ、従兄弟のデュラン・ラクサールの案内でロベール・ド・ボードリクールをヴォークルールに訪問。ロベールの従騎士、ベルトラン・ド・プーランジの興味をひく。

6月22日 ●ベドフォード公、シャンパーニュ代官アントワーヌ・ド・ヴェルジに命じて、ヴォークルールを攻囲。

7月 ●ドンレミ村に野盗来襲。ジャンヌ一家も近隣の村民と共にヌフシャトー城壁へ避難。

7月末 ●イギリス=ブルゴーニュ連合軍に敵対行動をとらないことを条件に、ヴォークルールの包囲が解除される。

●ジャンヌ、ヌフシャトーで知り合った青年との婚約不履行の件でトゥル裁判所に出頭。

10月12日 ●イギリス軍、オルレアンの包囲を開始。

10月17日 ●オルレアンで戦闘開始。

10月22日 ●オルレアン軍、サン=タントワーヌに防衛拠点を急造、トゥーレル砦を撤退する。

10月23日 ●イギリス軍、トゥーレル砦を占領。

10月24日 ●イギリス軍包囲司令官ソールズベリ、トゥーレル砦で砲撃に遭い、顔面に重傷を負う。

10月25日 ●ル・バタール、オルレアン防衛司令官として着任。

11月3日 ●ソールズベリ死亡。

12月1日 ●イギリス軍新司令官タルボット着任。

12月25日 ●クリスマスの1日停戦。

1429年1月2日 ●イギリス軍、オルレアンのルナール門に梯子をかけようとするが失敗。

1月11日 ●オルレアン側の砲手ジャン親方の投石機による攻撃が、トゥー

という。梳毛した糸を糸巻き棒（コミックス扉絵参照）と紡錘で糸を紡いだ。コミックス第1巻でジャンヌが母から習っているのがこの作業にあたる。

乙女（ピュセル）［ぴゅせる］
幻視者マリとシャルルの間で語られた「乙女」。これはジャンヌがシノンに到着した1429年頃から、呼ばれだしたジャンヌの呼び名「乙女ジャンヌ」（ジャンヌ・ラ・ピュセル）を暗示している。ジャンヌ・ダルクとは後世人が呼称したジャンヌの名で、同世代人はジャンヌのことをジャンヌ・ラ・ピュセル（乙女ジャンヌ）と呼んでいた。また本書ではジャネットと呼ばれているが、1431年2月21日灰色の水曜日にルーアンで行われた異端審問第1回予備審問において、ジャンヌ自ら故郷ではジャネットと呼ばれていたと語っていることに基づいている。

ファッション［ふぁっしょん］
14世紀の一般的なファッションは次の通り。男性・シャツと靴下、体に密着したすそ広がりのチュニックを着ていた。さらにベルトで腰を締め、その上から前開き、もしくはフード付きのマントを羽織っていた。女性・下着として亜麻布か絹のシャツ、靴下を着けた。その上から腰から裾広がりになる長い上着を着用。その上から長い床丈の上着を羽織る。以上は裕福な男女のスタイルで、ジャンヌはどちらかといえば次に紹介する庶民の格好である。庶民・男性はシャツを着て、亜麻布の靴下、ズボンの裾をブーツに入れて穿いていた。女性はシャツとチュニックを着て靴下を穿いていた。靴はやわらかい革の短いブーツが普及していた。

ブルゴーニュ派
［ぶるごーにゅ-は］
ジャン無畏公（ブルゴーニュ公ジャン）を中心とするフランス2大勢力のひとつ。ジャン無畏公の暗殺以降、積極的にイギリス王国と同盟を結び、着実にその勢力を増大している。

ブールジュ［ぶーるじゅ］
ジャン無畏公の暗殺を執行したシャルル王太子が、パリから逃げのびた都市。王太子は暗殺の嫌疑をかけられた裁判で、有罪と判決され王位継承権を剥奪されている。

ペスト→黒死病

【ま行】

マクセイ村［まくせい-むら］
ドンレミ村の東1・5キロ先に位置する寒村。ザールブリュッケン配下の野盗集団に見せしめのための襲撃を受け、逃げ遅れた村民が皆殺しにされた。マクセイ村の教会には聖女カトリーヌの像が祭られていた。

モントロー橋［もんとろー-はし］
パリ東南のフォンテーヌブロウ近くの町・モントローに架かる橋。この橋の上でジャン無畏公は、シャルル王太子配下の兵士によって暗殺された。タヌギィ・デュ・シャテルをはじめとするオルレアン公家の従者が3人もいたことから、ジャン無畏公がオルレアン公を暗殺したことに対する復讐の色が濃厚だった。タヌギィの斧で頭蓋骨を叩き割られたほかに、オルレアン公暗殺のときと同様にジャン無畏公の左の拳は切断されていたという。

【や行】

槍［やり］
短い武器を持った相手の機先を制するために、武器に長い柄をつけた棒状武器の一種。主に歩兵が用いた。中世では戦闘よりも喧嘩やフェンシングなどで用いられることが多かった。

野盗→エコルシュール

妖精の木［ようせい-の-き］
ドンレミ村の森・樹の森（ボア・シュニュー）のはずれに立つブナの木。領主であるプエール・ド・ブールモンが植えたものだといわれている。この大樹には、木の妖精であるマールとレーネが棲んでいる。ドンレミ村では毎年5月に、春を呼んでくれると信じていることの樹の根元で祭が行われている。

D'arc 年表 Chronological Table of D'arc

ジャンヌの足跡を年表で辿ることにしよう。ただし、この年表は『Darc』本編に沿ったものなので、必ずしも史実と一致しない部分もあります。なお太字がコミックに登場する事象です。

- 1380年9月 ●賢者王シャルル5世43歳で急死。
- 1382年 ●アンジュ公ルイがナポリ派兵を国庫に負担させようとしたため、マイヨタンの乱起こる。ベリー公ジャンの重税政策に反抗して農民と商工業者がテュシャンの乱起こす。
- 1385年7月17日 ●シャルル6世、アミアン大聖堂でエリザベートと結婚。以降王妃はイザボー・ド・バヴィエールと呼ばれるようになる。
- 1388年 ●満20歳となったシャルル6世、叔父たちの後見を廃して親政を宣言。
- 1392年8月5日 ●シャルル6世、ブルターニュ進攻途中、ル・マンの森で発狂。
- 1396年3月29日 ●イギリスとフランスの和平条約締結。
- 9月17日 ●シャルル6世とリチャード2世会見す。
- 10月30日 ●イギリス王リチャード2世、フランス王女イザベルと結婚。
- 1401年 ●リチャード2世獄死。
- 1407年11月23日 ●ルイ・ドルレアン（オルレアン公ルイ）、ヴィエーユ・デュ・タンプル街でブルゴーニュ公ジャン配下の武装した一団に暗殺される。
- 1409年3月9日 ●ブルゴーニュ、オルレアン両家、シャルトルで和解。
- 1411年 ●**ジャンヌ、ドンレミ村に生まれる。（1412年1月6日の説もあり）**
- 7月11日 ●シャルル・ドルレアン、ジャン無畏公（サン・プール）に弾劾状を送付。ジャンもこれにこたえて挑戦状を送付。以降両家の武力衝突頻発。
- ●シモン・ル・クートリエを指導者とするカボシュ党の反乱（～1413年）
- 1412年8月22日 ●オーセールの和議で内乱休止。
- ●**ジャック・ダルク、ザールブリュッケンの指揮のもと、内乱鎮圧に参加。**
- 1413年1月30日 ●パリ三部会開催。
- 5月26日 ●カボシュの勅令発布。されど暴動収まらず。
- 8月23日 ●ジャン無畏公、パリを脱出。
- 9月27日 ●アルマニャック伯パリ入城。
- 1414年9月4日 ●アラス条約締結。
- 1415年 ●教会改革者ボヘミアのヤン・フス、異端のかどにより火あぶりに処される。
- 2月9日 ●ヘンリー5世の使節、ドーセット伯とダーハム、ノーウィッチ司教、パリに到着。イギリス側の無理な要求に会談決裂。
- 2月22日 ●ブルゴーニュ、アルマニャック派、ルーブル宮で和平成立。
- 8月12日 ●イギリス軍、エーブ岬に上陸。
- 9月22日 ●イギリス軍、アルフルールを占領する。
- 10月25日 ●アザンクールの会戦にてフランス騎士軍壊滅。
- 12月18日 ●第2王太子ルイが急死。
- 1416年 ●イギリスとブルゴーニュの同盟成立。

7月10日 ●国王軍、トロワ入城。
●ベドフォード公、ブルゴーニュ公をパリで歓待。15日まで。
7月12日 ●国王軍、アルシ＝シュール＝オーブ着。
7月13日 ●国王軍、レットレ着。
7月14日 ●国王軍、シャロン＝シュール＝マルヌ着。途中でジャンヌ、ドンレミ村民4人と再会。
7月15日 ●国王軍、セッソー着。
7月16日 ●国王軍、午後4時頃、ディユ・リュミエール門からランスに入城。
7月17日 ●シャルル7世、ランス大聖堂で戴冠。ランス司教ルニョー・ド・シャルトルが式を執行する。
●ジャンヌ、ブルゴーニュ公に書状送る。
7月21日 ●シャルル7世、ランス出立。コルベニのサン・マルクール修道院にて瘰癧患者を見舞う。
7月23日 ●国王軍、ソワンソン着。
7月25日 ●イギリス軍の援軍、パリ到着。
7月27日 ●国王軍、シャトー＝ティエリ着
7月31日 ●シャルル7世、ジャンヌの請願に従いドンレミおよびグリュー村免税許可状交付。
7月中 ●クリスティーヌ・ド・ピザン、アラン・シャルティエ「ジャンヌ頌」作詩。
8月1日 ●国王軍、モンミライユ着。
8月4日 ●イギリス軍、セーヌ左岸で軍事行動開始。
8月5日 ●国王軍、プロヴァン着。ジャンヌ、ランス住民宛に書状を送る。
8月7日 ●国王軍、クーロミエ着。
8月10日 ●国王軍、ラ・フェルテ＝ミロン着。
8月11日 ●国王軍、クレピ＝アン＝ヴァロワ着。
●シャルル7世、ベドフォード公からの決闘状を受け取る。
8月12日 ●国王軍、ラニ＝シュール＝マルヌ着。
8月13日 ●国王軍、ダマルタン着。
8月14日 ●イギリス軍、サンリス方面に展開。
8月15日 ●国王軍、イギリス軍、モンテピロワで対峙するも戦闘開かず。
国王軍、クレピへ撤退。
8月16日 ●国王の施設団、アラスでフィリップ善良公に賠償を申し出て、中立を要請。
8月17日 ●シャルル7世、コンピエーニュ市民から町の鍵を奉呈される。
8月18日 ●国王軍、コンピエーニュ入城。

8月21日 ●国王軍、ブルゴーニュ軍、コンピエーニュで休戦会談開始。1週間後に合意。1430年1月1日まで。その後1430年3月15日まで延長。
8月22日 ●ジャンヌ、アルマニャック伯に返書送る。
8月23日 ●ジャンヌ、偵察行動の名目でアランソン公と共にコンピエーニュ出立。
8月26日 ●ジャンヌ、サン＝ドニ着。
8月28日 ●国王軍、サンリスまで進出。
9月4日 ●ジャンヌ、ラ・シャペル＝サン＝ドニに屯営。パリ守備隊と小競り合いを展開。
9月7日 ●国王軍、ジャンヌたち前衛隊と合流。
9月8日 ●午後6時頃よりパリ総攻撃開始。ジャンヌ、パリ、サン＝トノレ門攻撃。ジャンヌ腿に矢傷負う。
9月9日 ●ジャンヌ、パリより撤収。
9月10日 ●パリ攻撃中止命令下る。
9月13日 ●国王軍、サン＝ドニよりロワールに向けて撤退する。
9月21日 ●国王軍、ジアンで解散。
9月末 ●ジャンヌ、ブールジュの主計官ルネ・ド・ブーリニ邸で3週間ほど休暇。アランソン公はノルマンディー遠征へ。
10月中 ●ジャンヌ、ニヴェルネ遠征の準備。
●ジャンヌ、自称予言者カトリーヌ・ド・ラ・ロシェルと会見。
10月末 ●ジャンヌ、サン＝ピエール＝ル＝ムーティエ方面へ進発。
11月4日 ●ジャンヌ、サン＝ピエール＝ル＝ムーティエ奪取。
11月6日 ●ヘンリー6世、ウェストミンスター大寺院で戴冠。
11月9日 ●ジャンヌ、ムーランよりリオン住民に宛てて書状送る。
11月24日頃 ●ジャンヌ、ラ・シャリテ包囲開始。補給線の確保が困難なため、約1カ月の包囲後、グレサールの奇襲攻撃を受けて壊滅状態となり退却。
12月25日 ●ジャンヌ、ジャルジョーでクリスマスを過ごす。
12月末 ●シャルル7世、ムアンでジャンヌに授爵証書交付。デュ・リスの姓を下賜される。
1430年1月8日 ●フィリップ善良公、イザベル・ド・ポルテュガルと結婚。
1月19日 ●ジャンヌ、オルレアン市主催の宴会に招待される。
冬 ●ジャンヌ、シュリ[illegible]レ

…モイユ城に滞在する。
3月 ●ランスのブルゴーニュ派住民、ブルゴーニュ軍導入を計画。
3月16日 ●ジャンヌ、ランス市民宛に書状送る。
3月23日 ●フス派への書状（署名パスクレル）
3月28日 ●ジャンヌ、ランス市民宛に書状送る。
4月初旬 ●ジャンヌ、シュリーよりピエモンテ傭兵200名を率いてラニに進発。オーセールで開催予定の講和会議6月に延期。
4月4日 ●フィリップ善良公、ペロンヌで全軍に集結命令。
4月8日 ●パリで反英暴動計画発覚。150人以上が逮捕、首謀者6人が公開処刑される。残りのものは深夜セーヌ川に投げ込まれた。
4月17日 ●～22日の間のいずれかの日。ジャンヌ、ムランの堀端で6月24日がくる前に捕虜になるとのお告げを聞く。
4月22日 ●フィリップ善良公、全軍を率いて進発。
4月23日 ●ヘンリー6世、大部隊を率いてカレー上陸。
4月24日 ●ジャンヌ、ラニでの一戦の後、サンリスで国王よりの援軍を待機。敵将フランケ・ダラスを捕虜にする。
4月25日 ●5月6日までジャンヌ、クレピ＝アン＝ヴァロワ滞在。
5月6日 ●フィリップ善良公、ノワイヨンに進出。コンピエーニュで作戦開始。
5月7日 ●ブルゴーニュ軍、ショワジ＝オ＝バックを包囲する。
5月13日 ●ジャンヌ、コンピエーニュ入城。
5月14日 ●コンピエーニュ市、ジャンヌ歓迎の宴を設ける。
●ブルゴーニュ軍、ショワジ奪取。コンピエーニュ前面に展開。
5月15日 ●ジャンヌ、ショワジ救援に向かう。
5月16日 ●ジャンヌ、ショワジより撤退。
5月18日 ●ジャンヌ軍、ソワソン入城を拒否される。
5月20日 ●ジャンヌ、ソワソンから退去、クレピに戻る。
5月22日 ●ジャンヌ、ブルゴーニュ軍がコンピエーニュ前方に展開したことを知り、クレピを出発する。
5月23日 ●ジャンヌ、早朝コンピエーニュ入城。夕方、マルニ方面に出陣、ピエール、副官ドーロン、武将ポトン・ド・サントライユと共にジャンヌ捕虜となる。
5月26日 ●ジャンヌ一行、クレロワ発。ボーリューに向かう。ボーヴォワールで一泊。パリ大学、ジャンヌ身柄引き渡し要求。
5月27日 ●ジャンヌ一行、ボーリュ＝レ＝フォンティーヌ入城。
6月6日 ●ブルゴーニュ公妃、ノワイヨンでジャンヌと面会。
6月22日 ●パリ大学、再度身柄引き渡しを要求。
6月27日 ●ピエール・コション、カレーでヘンリー6世、ベドフォード公と会見。ジャンヌとブルゴーニュ公夫妻、ノワイヨンにおいて第2回会見。
7月10日 ●ジャンヌ一行、ボーリュ出立。
7月14日 ●ピエール・コション、コンピエーニュでブルゴーニュ公に会見。
7月末 ●ピエール・コション、ルーアンでヘンリー6世、ベドフォード公と会見。
●ジャンヌ、搭より飛び降り負傷。
10月24日 ●コンピエーニュ包囲軍撤収。ジャン・リュクサンブール、ノワイヨンに撤退。
11月9日 ●ジャンヌ一行、ボールヴォワール出立。アラスに向かう。ジャンヌ、トゥールネ町民から送られた寄付金、22クラウンを受け取る。
11月末 ●ジャンヌ一行、アラスよりル・クロトワに向かう。1日目はリシュー城、2日目はサン＝リキエの修道院、3日目にクロトワに到着。
12月6日 ●ジャン・ド・リュクサンブール、ジャンヌの身代金1万リーヴル受領。
12月20日 ●ジャンヌ一行、ル・クロトワとサン＝ヴァレリ間でソンム湾横断。ウー城に一泊。
12月21日 ●ジャンヌ一行、アルク城に宿泊。
12月22日 ●ジャンヌ一行、ボスク＝ル＝アールに宿泊。
12月23日 ●ジャンヌ一行、午後にルーアン着。ル・ブーヴルイユ城に収監される。
12月28日 ●ピエール・コション、ジャンヌをルーアンで裁く権利を取り付ける。
1431年1月9日 ●予備審査初日、ボーヴェ司教による立件説明。役割分担依頼。
1月13日 ●ジャンヌに関する調査報告書朗読。ベドフォード公夫妻ルーア

レル砦の屋根を破壊。イギリス兵6名が死亡。

1月 ●ジャンヌ、ビュリのデュラン・ラクサール家に2回目の逗留。

1月下旬 ●ル・バタール、ブロワに赴きクレルモン伯にオルレアンへの援助を要請。

1月30日 ●イギリス軍、サン＝ラドルとサン＝ジャン＝ド＝ラ＝リュエルの葡萄畑の添木を引き抜き薪に使う。

●ル・バタール、クレルモン伯シャルルを迎えるためブロワへ。

2月 ●ジャンヌ、ヴォークルールでロベール・ド・ボードリクールと2回目の会見。

●ジャンヌ、ロベールとの会見のため、車大工アンリ・ル・ロワイエ夫妻方に寄宿。

●ジャンヌ、ヴォークルールの住民の話題となる。

●ベルトランの進言で、ロベールはドンレミ村に調査団を派遣。

●ジャンヌ、ロレーヌ公シャルルに招かれてナンシーへ赴く。アンジュ伯ルネ、ジャンヌのことを母であるヨランド・ダラゴンに報告する。

●ジャンヌ、ナンシーの帰途、サン＝ニコラ＝デュ＝ポールへ巡礼に赴く。

2月8日 ●スコットランド人部隊隊長ジョン・スチュアートの弟ウィリアムとヴェルデュザン領主ジャン・レスコット率いる部隊、オルレアンに援軍として到着。

2月12日（鰊の日） ●ジャンヌ、ロベールとの3回目の会見でフランス軍敗北を予言（？）する。

●イギリス軍輸送部隊にフランス軍攻撃をかけるが、瞬時に打ち負かされる。ル・バタール、この戦いで足を負傷。

2月 ●ヴォークルールの住民、皆で費用を負担してジャンヌに甲冑と衣服を贈る。

●ロベール、ジャンヌに黒の胴着、黒の股引、灰黒色の上衣、拍車の付いた褐色革の乗馬靴、黒の直垂、剣を贈る。

2月17日 ●ジャンヌの噂、オルレアンにも流れ始める。

2月18日 ●クレルモン伯の大部隊、オーヴェルニュ男爵、ルイ・ド・キュラン提督など主だった部隊が、国王に会いに行くとオルレアンを退去。

2月22日 ●ジャンヌ、夕方にベルトラン・ド・プーランジ、ジャン・ド・ヌイヨンポン、その2人の従者、シャルル王の伝令使コレ・ド・ヴィエンヌ、弓兵リシャールの合計6人を伴って、フランス門よりヴォークルールを出立する。

2月23日 ●ジャンヌ一行、クレルヴォー着。

2月24日 ●ジャンヌ一行、ポティエール着。

2月25日 ●ジャンヌ一行、オーセール着。

2月26日 ●ジャンヌ一行、メジル着。

2月27日 ●ジャンヌ一行、ヴィグラン着（ジアン経由）

2月28日 ●ジャンヌ一行、ラ・フェルテ着。

2月末 ●オルレアン市民、ブルゴーニュ公による同市支配を要請。

3月1日 ●ジャンヌ一行、サン＝テニャン着。

3月2日 ●ジャンヌ一行、サント＝カトリーヌ＝ド＝フィエルボワ着。ブシコー司祭館に宿泊。ここで国王に謁見願出の書簡を口述。

3月3日 ●ジャンヌ一行、リル＝ブーシャール着。サン＝ジル教会でミサに参列。

3月4日 ●ジャンヌ一行、正午頃シノン着。旅館グランカロワに投宿。城からの指示でラ・バール夫人邸で待機。

3月5日 ●王室顧問会議でジャンヌ問題討議される。

3月6日 ●ジャンヌ、夕方頃に国王に謁見。

3月7日 ●ジャンヌ、アランソン公ジャンと初対面。

3月10日 ●ジャンヌ、聖職者の審問を受ける。

3月11日 ●ジャンヌ、ポワティエへ移動。元パリ高等法院の弁護士ジャン・ラバトー邸で尋問を受ける。

3月22日（聖週間の火曜日） ●ジャンヌ、オルレアン包囲中のイギリス軍将兵へあてた書簡を口述。

4月2日 ●ジャンヌ、シノンより甲冑師を派遣して、サント＝カトリーヌ＝ド＝フィエルボワの教会堂の祭壇近く、地中に埋められている昔の剣を探させる。

4月5日 ●ジャンヌ、トゥールへ。甲冑師コラ・ド・モンバゾンに依頼して甲冑（トゥール貨百リーブル）、オーヴ・プールノワールに軍旗3本の製作を依頼（トゥール貨25リーブル）。

●ジャンヌ、ベアン夫人経営の宿に投宿。ジャンヌの2人の兄、ピエールとジャックマンと合流。ジャンヌの幕僚に副官ジャン・ドーロン、小姓ルイ・ド・クートとレーモン、伝令使アンブルヴィルとギュイエンヌが任命。

4月21日 ●ジャンヌ、ブロワ着。オルレアン派遣輸送部隊と合流。従軍司祭用の旗調達。

4月27日 ●ジャンヌ、ブロワよりオルレアンに向け出発する。

●リニー＝ル＝リボー経由、トゥーレル砦南方5キロの地点でロワール川に接近、オルレアン上流に回り込むコースをとる。

4月28日 ●ジャンヌ、ジェシーでル・バタールの出迎えを受ける。

4月29日 ●ジャンヌ、午後8時頃ブルゴーニュ門からオルレアンに入城。ブーシェ邸に投宿。

4月30日 ●ジャンヌ、ベロクロワ砦のクラシダに使者の解放を呼びかける。

5月1日 ●ジャンヌ、市中を巡察。クロワ・ラモン近くでイギリス軍に呼びかける。ル・バタール、救援部隊出迎えのためブロワへ。

5月2日 ●ジャンヌ、騎乗でイギリス軍要塞を視察。その後サント・クロワ教会で祈りを捧げる。

5月3日 ●聖十字架発見の祝日。オルレアン市内で行列催される。ジャンヌも参加。

5月4日 ●早朝、ル・バタール援軍を先導して帰着。午後、3時間の戦闘の末、サン・ルー砦を陥落。ジャンヌ、戦闘を初体験。

5月5日 ●昇天祭の日。ジャンヌは聖体拝領を受ける。

●ジャンヌ、イギリス軍に3回目の勧告状を贈る。作戦会議でジャンヌに批判集中。

5月6日 ●ジャンヌ、市民を先導する形でオーギュスタン砦を奪回。

5月7日 ●朝6時、ジャンヌたちトゥーレル砦に肉薄。

●昼過ぎジャンヌは肩口に矢を受けて負傷。トゥーレル砦は南北からの攻撃を受けて陥落する。

5月8日 ●早朝、イギリス軍、砦を破壊してオルレアン包囲陣を撤収。

5月9日 ●ジャンヌ、ル・バタールと共にオルレアンを去る。

5月11日 ●ジャンヌ、ロッシュにて国王に謁見。

5月23日 ●ジャンヌ、サン＝フロランでアランソン公一家と6月2日まで過ごす。

5月29日 ●ジャンヌ、セル＝アン＝ベリに立ち寄る。

6月8日 ●ジャンヌ、ロモランタンに立ち寄る。

6月9日 ●ジャンヌ、オルレアンに部隊を集結。

6月10日 ●ジャンヌ、サンティヨン着。

6月11日 ●ジャンヌ、ジャルジョー攻撃。

●ジャンヌは開城勧告を出す。

6月12日 ●ジャンヌ、4時間の戦闘の末、ジャルジョーを奪回。イギリス軍将校サフォーク伯捕虜に。

6月13日 ●ジャンヌ、オルレアンに復帰。ジャルジョーに参戦できなかった部隊次々と合流。

6月14日 ●ジャンヌ、マン＝シェル＝ロワールに向けてオルレアン出立。

6月15日 ●ジャンヌ、マンの町に通じる橋を占領確保後、ボージャンシーに向かう。宮廷を追放されていたリシュモン伯の部隊、参戦。

6月16日 ●ジャンヌ、ボージャンシーを奪回する。

6月17日 ●国王軍とイギリス軍、マン近郊で対陣。ボージャンシー奪回をあきらめたイギリス軍は撤退。国王軍の追撃始まる。

6月18日 ●パテの会戦で国王軍大勝利。英将タルボット捕虜になる。イル・ド・フランス方面で国王軍優位の確立。

6月19日 ●ジャンヌ軍、オルレアン帰着。

6月20日 ●オルレアン市、ジャンヌに感謝のしるしとして衣服を贈る。

6月22日 ●ヌフシャトーで国王顧問会議。

6月24日 ●国王軍、ジアンへ向けて出発。

6月25日 ●ジャンヌ、ジアンよりトゥールネ住民宛に書状発送。

●ジャンヌ、ブルゴーニュ公に戴冠式出席要請の書状を口述。

6月26日 ●ルイ・ド・キュランの部隊、ボニーを占拠。

6月27日 ●ジャンヌ、ジアン出立。

6月29日 ●国王軍、オーセールに向けて進発。

6月30日 ●国王軍、オーセール着。ブルゴーニュ守備隊と衝突。3日間、同市との間に使者が往来。国王軍、食料補給のみで立ち去る。

7月1日 ●イギリス軍の援軍、カレーに上陸。

7月5日 ●国王軍、トロワ城外着。ジャンヌ、開城を促す書簡を送るが、守備隊はこれを拒否。国王軍、総攻撃の準備を整えるのをみて、守備隊は降伏、城を退去する。

ンを去る。
1月23日 ●今後の方針および予備調査実施を決定。
1月末 ●ボーヴェ司教派遣のジャンヌ国許での調査結果復命。
2月13日 ●陪席判事、検察官、書記などによる宣誓。
2月14日 ●予備調査。16日まで。
2月19日 ●異端審問官代理への立ち会い要請。
2月20日 ●異端審問官代理、管轄権を理由に立ち会い拒否。ボーヴェ司教、立ち会いを再要請。
2月21日 ●第1回公開審理。
2月22日 ●第2回公開審理。異端審問官代理ジャン・ル・メートル初出廷。
2月24日 ●第3回公開審理。
2月27日 ●第4回公開審理。声の正体が聖女カトリーヌと聖女マルグリットであると、ジャンヌが証言。
3月1日 ●第5回公開審理。ジャンヌの男装についての審問が行われた。
3月3日 ●第6回公開審理。
3月4日 ●ボーヴェ司教宅での陪席判事の協議。
3月10日 ●ジャンヌの独房にて第1回非公開審問。
3月12日 ●ジャンヌの独房において午前、午後と第2回非公開審問。
3月13日 ●ジャンヌの独房において第3回非公開審問。
●異端審問官代理、初めて審査に同席。
3月14日 ●ジャンヌ独房において午前、午後と第4回非公開審問。
3月15日 ●ジャンヌ独房において第5回非公開審問。
3月17日 ●ジャンヌ独房において第6回非公開審問。
3月18日 ●ボーヴェ司教宅での陪席判事の協議。
3月24日 ●ジャンヌ独房において第7回非公開審問。ジャンヌに審問と答弁を読み聞かせて確認を求める。
3月25日 ●ジャンヌ独房において第8回非公開審問。予審終了。
3月26日 ●普通審理の開始。
3月27日 ●検事ジャン・デスチヴェによるジャンヌに対する論告70ヶ条の朗読。
3月31日 ●論告に対するジャンヌの答弁およびジャンヌに対する審問。
4月1日 ●この日より年号表示法改まる。
4月2日 ●5日まで陪席判事による審議と告発12ヶ条の作成。
4月12日 ●12ヶ条の告発文について神学博士16名、神学士および神学士候補生3名による討議。
4月13日 ●12ヶ条の告発文に関する参事会会議が召集されるが、人数が足りず流会となる。
4月16日 ●ボーヴェ司教差し入れの鯉を食べた後ジャンヌ発病。
4月18日 ●コション以下8名が独房をたずね、牢内でのジャンヌへの説諭。
5月2日 ●神学博士ジャン・ド・シャチヨンによるジャンヌに対する公開訓諭。
5月9日 ●天守閣でジャンヌに対する拷問と威嚇。
5月13日 ●城主ウォーリック伯主催の大宴会。ウォーリック伯ほか牢内のジャンヌを訪問。
5月14日 ●告発状に関するパリ大学の回答到着。
5月19日 ●ボーヴェ司教宅でパリ大学の回答討議。
5月23日 ●ジャンヌへの起訴状朗読および最終訓戒。
5月24日 ●サン＝トゥーアン修道院付属墓地内に仮設された法廷での公開説教。ジャンヌの改しゅんの誓い。ジャンヌ牢内で婦人服着用。
5月27日 ●ミサへの出席などの約束が守られなかったとして、ジャンヌ、再び男子服着用。
5月28日 ●ボーヴェ司教、異端再犯のかどでジャンヌを尋問。
5月29日 ●ボーヴェ司教、陪席判事を召集。処置を討議。
5月30日 ●最後の説教の後、ヴィユ・マルシェ広場にてジャンヌの火刑執行。灰は拾い集められてセーヌ川に投げ捨てられた。
6月7日 ●ボーヴェ司教、旧陪席判事の7人を召集。ジャンヌの“声”に関する証言を求める。「死後発表の尋問報告」と呼ばれる文書作成。
6月8日 ●イギリス国王、キリスト教国首長に書簡を送り、ジャンヌの一件を報告。
6月12日 ●イギリス国王、ボーヴェ司教ほかに保証状を発行。
6月30日 ●イギリス軍、ノルマンディー救援のためにカレーに上陸。
7月 ●バーゼル公会議。1449年まで。
7月2日 ●ビュルネヴィルの戦い。フランス軍惨敗。ルネ・ダンジュー捕虜となる。
8月11日 ●ル・ベルジュの戦い。ポトン・ド・サントライユ捕虜となる。
10月28日 ●ルーヴィエ陥落。イギリス軍、殺戮の限りを尽くす。
12月16日 ●ヘンリー6世、パリ・ノートルダム大寺院で戴冠式。
12月25日 ●ヘンリー6世、パリを去る。
1432年1月 ●ピエール・コション、リジュー司教に転出。
2月 ●ルーアンで大規模な民衆暴動発生。
2月20日 ●ル・バタール、シャルトル奪回。
1433年4月 ●ブルゴーニュ公、ブルターニュ公、アミアンにてイギリスと同盟締結。
1434年12月 ●ヌヴェールでブルゴーニュ公、ブルターニュ公、ブルボン公、および教皇の使節によって協議が行われる。
1435年1月16日 ●国王派・ブルゴーニュ派和平交渉。ヌヴェールで開始。
8月5日 ●国王派・ブルゴーニュ派・イギリス、アラスで会談。
9月14日 ●ベドフォード公ジョン没。
9月21日 ●国王派・ブルゴーニュ派、アラス条約締結。
●野盗、野武士の横行。
9月24日 ●イザボー・ド・バヴィエール没。
1436年2月 ●国王軍、ポントワーズ奪回。
4月17日 ●国王軍、パリ入城。
5月20日 ●偽ジャンヌ・ダルク、クロード、メス地方に出没。ジャンヌの兄プティ・ジャンの認知、同行。
1437年11月12日 ●シャルル7世、パリ入城。
1438年 ●黒死病流行。
●シャルル7世、国本勅諚採択。
1439年7月28日 ●偽ジャンヌ、クロード、オルレアンに出没。
8月 ●リシュモン伯、マルヌ川の要衝モー奪回。
11月2日 ●シャルル7世、オルレアン勅令によって常設軍の基礎を作る。
1440年 ●偽ジャンヌ、クロード、パリに出没。
●サヴォワ公アメデ8世、対立教皇フェリクス5世として選出される。
2月 ●諸侯、王太子の反乱、プラグリーの乱。
7月 ●ジャンヌの母イザベル・ロメ、オルレアンに移住。後にピエールも。
1441年1月14日 ●シャルル・ドルレアン、新公妃を伴いオルレアン入城。
1442年12月18日 ●ピエール・コション急死。
1443年8月11日 ●王太子ルイ、ディエップ救援に遠征。
1444年5月28日 ●ヘンリー6世とマルグリット・ダンジューの婚約を祝し英仏休戦。6月1日〜1446年4月1日まで。
1447年10月11日 ●教皇ニコラウス5世登座により、



1449年7月17日 ●国王軍、ノルマンディー反攻へ。フェリクス5世退位。シスマ終結。
11月10日 ●シャルル7世、ルーアン入城。
1450年2月15日 ●シャルル7世、ルーアンでジャンヌ裁判見直しを命令。
4月15日 ●ノルマンディー、フォルミニの戦いで国王軍完勝。
1452年2月 ●教皇特使ギヨーム・デストゥートヴィル、シャルル7世とジャンヌ裁判に関して協議。
5月2日 ●ジャンヌのやり直し裁判のための調査開始。
●ルーアンにおいて第1回公式審問。
1453年7月17日 ●国王軍、カスティヨンの戦いで勝利。タルボット戦死。
1455年4月8日 ●教皇カリストゥス3世、ジャンヌ裁判のやり直しを命じる勅書下付。
11月7日 ●イザベル・ロメ、パリ・ノートルダム大寺院においてローマ教皇庁審査委員にやり直し裁判請願。
11月17日 ●ルーアンにおいて復権裁判第1回弁論。
12月12日 ●証人陳述。
1456年1月28日 ●ドンレミでの審問会。
2月22日 ●オルレアンでの審問会。
7月7日 ●処刑裁判有罪判決無効宣告。
1909年4月18日 ●教皇ピオ10世によるジャンヌの列福式。
1920年5月16日 ●教皇ベネディクトゥス15世によるジャンヌ列聖式。
1994年7月10日 ●月刊アニメージュ誌上にて、原作／酒見賢一、画／近藤勝也「D'arc」連載開始。
1995年7月10日 ●「D'arc」第1部終了。月刊アニメージュでの連載を終了。以降、描き下ろし形式で刊行。
1995年8月30日 ●「Super Heroic Fantasy D'arc 1」刊行さる。



ドンレミ村全景図



1月23日 ●今後の方針および予備調査実施を決定。
1月末 ●ボーヴェ司教派遣のジャンヌ国許での調査結果復命。
2月13日 ●陪席判事、検察官、書記などによる宣誓。
2月14日 ●予備調査。16日まで。
2月19日 ●異端審問官代理への立ち会い要請。
2月20日 ●異端審問官代理、管轄権を理由に立ち会い拒否。ボーヴェ司教、立ち会いを再要請。
2月21日 ●第1回公開審理。
2月22日 ●第2回公開審理。異端審問官代理ジャン・ル・メートル初出廷。
2月24日 ●第3回公開審理。
2月27日 ●第4回公開審理。声の正体が聖女カトリーヌと聖女マルグリットであると、ジャンヌが証言。
3月1日 ●第5回公開審理。ジャンヌの男装についての審問が行われた。
3月3日 ●第6回公開審理。
3月4日 ●ボーヴェ司教宅での陪席判事の協議。
3月10日 ●ジャンヌの独房にて第1回非公開審問。
3月12日 ●ジャンヌの独房において午前、午後と第2回非公開審問。
3月13日 ●ジャンヌの独房において第3回非公開審問。
3月14日 ●異端審問官代理、初めて審査に同席。
●ジャンヌ独房において午前、午後と第4回非公開審問。
3月15日 ●ジャンヌ独房において第5回非公開審問。
3月17日 ●ジャンヌ独房において第6回非公開審問。
3月18日 ●ボーヴェ司教宅での陪席判事の協議。
3月24日 ●ジャンヌ独房において第7回非公開審問。ジャンヌに審問と答弁を読み聞かせて確認を求める。
3月25日 ●ジャンヌ独房において第8回非公開審問。予審終了。
3月26日 ●普通審理の開始。
3月27日 ●検事ジャン・デスチヴェによるジャンヌに対する論告70ヶ条の朗読。
3月31日 ●論告に対するジャンヌの答弁およびジャンヌに対する審問。
4月1日 ●この日より年号表示法改まる。
4月2日 ●5日まで陪席判事による審議と告発12ヶ条の作成。
4月12日 ●12ヶ条の告発文について神学博士16名、神学士および神学士候補生3名による討議。
4月13日 ●12ヶ条の告発文に関する参事会会議が召集されるが、人数が足りず流会となる。
4月16日 ●ボーヴェ司教差し入れの鯉を食べた後ジャンヌ発病。
4月18日 ●コション以下8名が独房をたずね、牢内でのジャンヌへの説論。
5月2日 ●神学博士ジャン・ド・シャチヨンによるジャンヌに対する公開訓論。
5月9日 ●天守閣でジャンヌに対する拷問と威嚇。
5月13日 ●城主ウォーリック伯主催の大宴会。ウォーリック伯ほか牢内のジャンヌを訪問。
5月14日 ●告発状に関するパリ大学の回答到着。
5月19日 ●ボーヴェ司教宅でパリ大学の回答討議。
5月23日 ●ジャンヌへの起訴状朗読および最終訓戒。
5月24日 ●サン＝トゥーアン修道院付属墓地内に仮設された法廷での公開説教。ジャンヌの改しゅんの誓い。ジャンヌ牢内で婦人服着用。
5月27日 ●ミサへの出席などの約束が守られなかったとして、ジャンヌ、再び男子服着用。
5月28日 ●ボーヴェ司教、異端再犯のかどでジャンヌを尋問。
5月29日 ●ボーヴェ司教、陪席判事を召集。処置を討議。
5月30日 ●最後の説教の後、ヴィユ・マルシェ広場にてジャンヌの火刑執行。灰は拾い集められてセーヌ川に投げ捨てられた。
6月7日 ●ボーヴェ司教、旧陪席判事の7人を召集。ジャンヌの〝声〟に関する証言を求める。「死後発表の尋問報告」と呼ばれる文書作成。
6月8日 ●イギリス国王、キリスト教国首長に書簡を送り、ジャンヌの一件を報告。
6月12日 ●イギリス国王、ボーヴェ司教ほかに保証状を発行。
6月30日 ●イギリス軍、ノルマンディー救援のためにカレーに上陸。
7月 ●バーゼル公会議。1449年まで。
7月2日 ●ビュルネヴィルの戦い。フランス軍惨敗。ルネ・ダンジュー捕虜となる。
8月11日 ●ル・ベルジュの戦い。ポトン・ド・サントライユ捕虜となる。
10月28日 ●ルーヴィエ陥落。イギリス軍、殺戮の限りを尽くす。
12月16日 ●ヘンリー6世、パリ・ノートルダム大寺院で戴冠式。
12月25日 ●ヘンリー6世、パリを去る。
1432年1月 ●ピエール・コション、リジュー司教に転出。
2月 ●ルーアンで大規模な民衆暴動発生。
2月20日 ●ル・バタール、シャルトル奪回。
1433年4月 ●ブルゴーニュ公、ブルターニュ公、アミアンにてイギリスと同盟締結。
1434年12月 ●ヌヴェールでブルゴーニュ公、ブルターニュ公、ブルボン公、および教皇の使節によって協議が行われる。
1435年1月16日 ●国王派・ブルゴーニュ派和平交渉。ヌヴェールで開始。
8月5日 ●国王派・ブルゴーニュ派・イギリス、アラスで会談。
9月14日 ●ベドフォード公ジョン没。
9月21日 ●国王派・ブルゴーニュ派、アラス条約締結。
●野盗、野武士の横行。
9月24日 ●イザボー・ド・バヴィエール没。
1436年2月 ●国王軍、ポントワーズ奪回。
4月17日 ●国王軍、パリ入城。
5月20日 ●偽ジャンヌ・ダルク、クロード、メス地方に出没。ジャンヌの兄プティ・ジャンの認知、同行。
1437年11月12日 ●シャルル7世、パリ入城。
1438年 ●黒死病流行。
●シャルル7世、国本勅諚採択。
1439年7月28日 ●偽ジャンヌ、クロード、オルレアンに出没。
8月 ●リシュモン伯、マルヌ川の要衝モー奪回。
11月2日 ●シャルル7世、オルレアン勅令によって常設軍の基礎を作る。
1440年 ●偽ジャンヌ、クロード、パリに出没。
●サヴォワ公アメデ8世、対立教皇フェリクス5世として選出される。
2月 ●諸侯、王太子の反乱、プラグリーの乱。
7月 ●ジャンヌの母イザベル・ロメ、オルレアンに移住。後にピエールも。
1441年1月14日 ●シャルル・ドルレアン、新公妃を伴いオルレアン入城。
1442年12月18日 ●ピエール・コション急死。
1443年8月11日 ●王太子ルイ、ディエップ救援に遠征。
1444年5月28日 ●ヘンリー6世とマルグリット・ダンジューの婚約を祝し英仏休戦。6月1日〜1446年4月1日まで。
1447年10月11日 ●教皇ニコラウス5世登座により、



やってくる・・・



魔女コレット

妖精たちを視ることはできないのだが、"不思議のわざ"を自在に操る妖しげな魔女。その名もコレット・コルビー。彼女はジャネットになにをもたらすのだろう？



ライール

怒りを意味するライールをあだ名に持つ男、エティエンヌ・ド・ヴィニョル。「もしもお前がライールで、ライールが神様だったら、ライールがお前にしてほしいと思うだろうことをライールのためにしてやってくれ！」

ジル・ドレ

勇将として名を馳せたジル・ドレ。彼もまたアランソン公やル・バタール・ドルレアンと同じように、ジャンヌを信じて、共にイギリス軍に立ち向かうように、戦さを離れ、故郷へと舞い戻った彼を待っていたものはなんとも形容しがたい出来事だった



SUPER HEROIC FANTASY

D'ARC 2

NEXT ISSUE: "Collet the Witch!"

奇蹟の乙女は



ジャンヌ・ダルク

剣は嫌い。でも旗はその何十倍も大好きだというジャンヌ。いかにしてジャネットはジャンヌと呼ばれるようになり、槲の森からあらわれるという奇蹟の乙女へとかわっていくのだろう？

槲(かしわ)の森から



ここに紹介する人物は第2巻以降に登場する人々だ。そして、第2巻の内容は……。
幻視者(ヴィジョネール)マリ・ダヴィニヨンがシャルル王太子に語った
「フランスが荒れ果てようとする時、神がひとりの乙女を遣わし、この国を救う」
という幻視。
ジャネットは槲の森（ボア・シュニュー）で出会った謎の老女から、マリの視た幻視について教えられた。
だが、幻視には
「そして奇蹟を行う乙女は槲の森からあらわれる」
という続きがあった。
「この森から出てくるなんて信じられない」
とジャネットは思ったし、フランスがきちんとなることならば神がちゃんと考えてくれているはずだとも思った。
まさか自分が奇蹟の乙女であるとは思いもしない、まだまだジャネットが村の女の子だった頃の出来事である。



参考資料：

アンドレ・ボシュア（新倉俊一訳）
『ジャンヌ・ダルク』（クセジュ文庫）白水社
清水正晴『ジャンヌ・ダルクとその時代』現代書館
ジュール・ミシュレ（森井真・田代葆訳）
『ジャンヌ・ダルク』中央公論社
高山一彦編・訳『ジャンヌ・ダルク処刑裁判』白水社
村松剛『ジャンヌ・ダルク―愛国心と信仰』（中公新書）中央公論社
堀越孝一『ジャンヌ・ダルク』（朝日文庫）朝日新聞社
レジーヌ・ペルヌー　マリ＝ヴェロニック・クラン（福本直之訳）
『ジャンヌ・ダルク』東京書籍

アニメージュコミックスワイド判

D'ARC ジャンヌ・ダルク伝 1

原作　酒見賢一
画　近藤勝也

発行人　松園光雄
発行所　株式会社徳間書店
〒105-55 東京都港区東新橋1-1-16
電話 03-3573-0111
振替 00140-0-44392
印刷・製本所　大日本印刷株式会社

編集協力　加藤千高
編集担当　三ツ木早苗

乱丁・落丁の場合はおとりかえいたします。
定価はカバーに表示してあります。

お読みになったご感想、ご意見を上記住所・メディア書籍編集部「ダーク」係までお寄せ下さい。

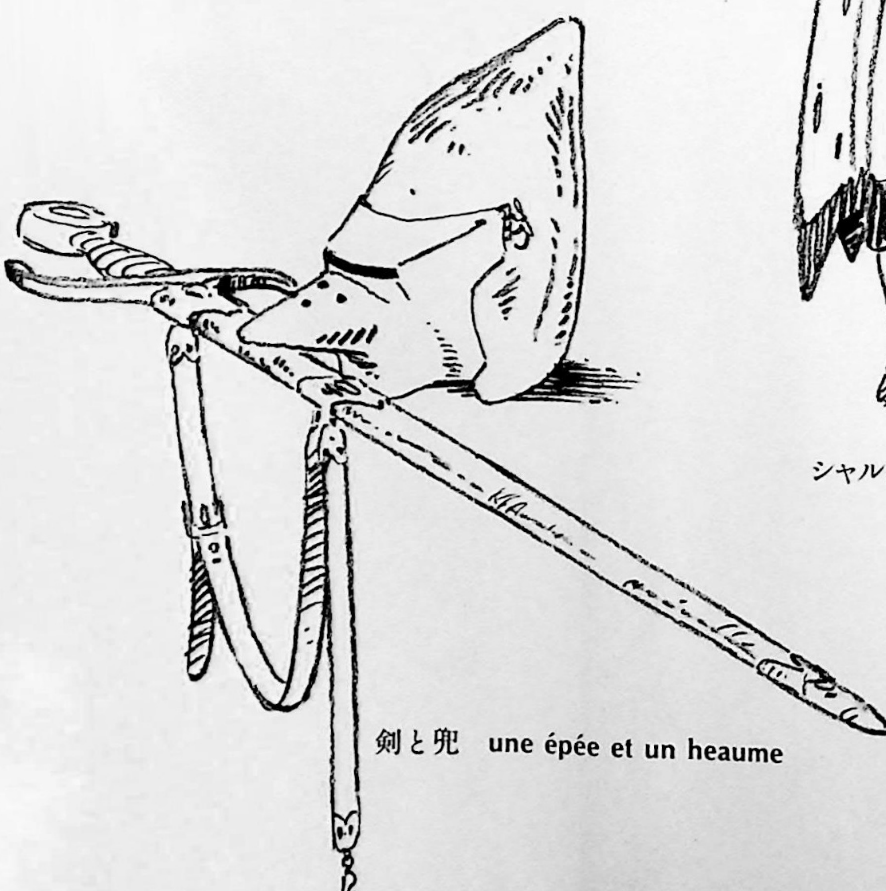
初出／月刊アニメージュ'94年8月号〜'95年8月号



小　姓　un page

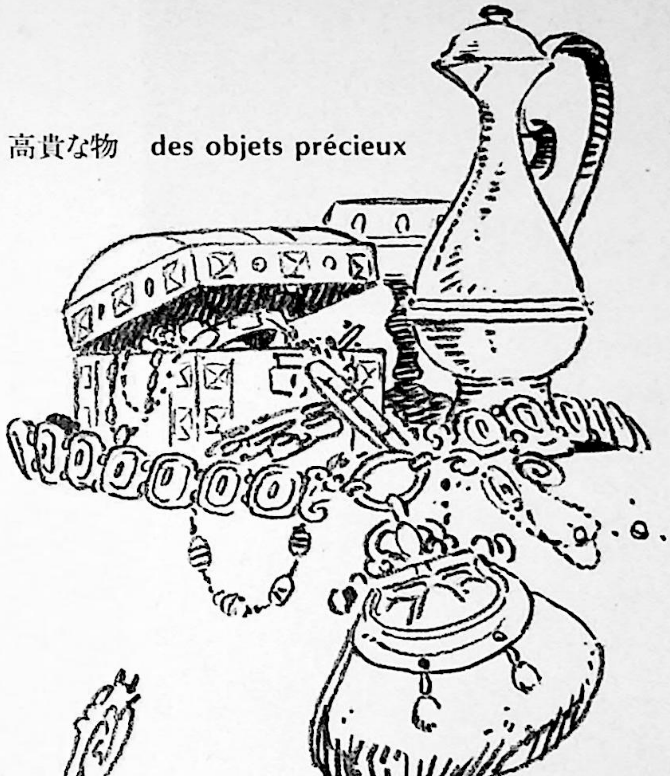


シャルル　Charles VII



剣と兜　une épée et un heaume

高貴な物　des objets précieux





聖　職　les clergés



貴婦人　une dame